

一般国道9号（中山名和道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

鳥取県西伯郡大山町

HINO KUCHI NISHI NO SUE
樋口西野末遺跡
SHIMO ICHI TEN JIN NO MINE
下市天神ノ峯遺跡

2011

鳥取県埋蔵文化財センター
国土交通省 倉吉河川国道事務所

一般国道9号(中山名和道路)の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

鳥取県西伯郡大山町

HINO KUCHI NISHI NO SUE
樋口西野末遺跡
SHIMO ICHI TEN JIN NO MINE
下市天神ノ峯遺跡

2011

鳥取県埋蔵文化財センター
国土交通省 倉吉河川国道事務所



1 樋口西野末遺跡調査地遠景(調査後：北から)



2 樋口西野末遺跡SB 1・2 完掘状況(東から)



1 樋口西野末遺跡赤彩土師器・小円礫出土状況(北から)



2 樋口西野末遺跡赤彩土師器(10)と小円礫

序

一般国道9号中山名和道路の改築に伴う発掘調査は、平成21年度から着手し、平成21年度末時点で延べ約4千平方メートルの調査を実施しています。

この発掘調査は、鳥取県直営の事業として、鳥取県埋蔵文化財センターが担当することとなりました。

発掘調査を行った、大山町にある樋口西野末遺跡、下市天神ノ峯遺跡では、縄文時代の落とし穴、古代の建物跡などを検出するに至り、この地域の歴史を解明するための重要な資料を確認することができました。さらに、殿河内定屋ノ前遺跡をはじめとする11箇所の遺跡について、確認調査を行いました。

本書は、その調査結果を報告書としてまとめたものです。この報告書が、郷土の歴史を解き明かしていく一助となり、埋蔵文化財が郷土の誇りとなることを期待しております。

本書をまとめるにあたり、国土交通省倉吉河川国道事務所、地元関係者の方々には、一方ならぬ御指導、御協力を頂きました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成23年3月

鳥取県埋蔵文化財センター

所長 久保 穰二郎

序 文

一般国道9号は山陰地方を東西に結ぶ主要幹線道路であり、広域交通はもとより、観光交通、生活交通など、多様な交通を担う重要な路線です。

このうち、国土交通省倉吉河川国道事務所は、東伯郡湯梨浜町から米子市(鳥取 - 島根県境)までを管轄しており、時代の要請に沿った各種の道路整備事業を実施しているところです。

中山名和道路は、西伯郡大山町八重から同町下市にかけての多種多様な交通による交通混雑の緩和、安全・円滑な交通の確保のほか、災害時の緊急輸送路の代替路線としての機能分担などを目的とし、さらに山陰の地方都市間の連携を強化するとともに、環日本海交流の基幹軸の一翼を担う高規格幹線道路(自動車専用道路)として整備を行っています。

このルートには、多数の埋蔵文化財包蔵地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第94条の規定に基づき、鳥取県教育委員会教育長に通知した結果、事前に発掘調査を実施し、記録保存を行うこととなりました。

平成21年度は、「樋口西野末遺跡」、「下市天神ノ峯遺跡」の2遺跡の本調査及び「殿河内定屋ノ前遺跡」他10箇所の確認調査について、鳥取県埋蔵文化財センターと発掘調査の委託契約を締結し、発掘調査を行いました。

本書は上記の遺跡についての調査結果をまとめたものです。この貴重な記録が、文化財に対する認識と理解を深めるため、ならびに、教育及び学術研究のために広く活用されることを願うと同時に、国土交通省の道路事業が、文化財保護に深い関心を持ち、記録保存に努力していることをご理解いただければ幸いです。

事前の協議をはじめ、現地での調査から報告書の編集に至るまでご尽力いただいた鳥取県埋蔵文化財センターの関係者に対して、心から感謝申し上げます。

平成23年3月

国土交通省 倉吉河川国道事務所
所 長 江 角 忠 也

例 言

1. 本報告書は、国土交通省倉吉河川国道事務所の委託により、鳥取県埋蔵文化財センターが、一般国道9号（中山名和道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査事業として、平成21年度に行った樋口西野末遺跡、下市天神ノ峯遺跡の本発掘調査、及び下市築地ノ峯東通第3遺跡、下市築地ノ峯東通第2遺跡、下市天神ノ峯遺跡、殿河内ウルミ谷遺跡、殿河内上ノ段大ブケ遺跡、殿河内定屋ノ前遺跡、住吉中平野遺跡、下甲退休原第1遺跡、樋口長田遺跡、樋口第1遺跡、樋口西野末遺跡の確認調査成果である。
2. 本報告書に収載した遺跡の所在地及び調査面積は以下のとおりである。
 - (1) 本発掘調査

樋口西野末遺跡	: 西伯郡大山町八重 37 - 3 外	調査面積 : 1,372m ²
下市天神ノ峯遺跡	: 西伯郡大山町下市 835 - 3 外	調査面積 : 20m ²
 - (2) 確認調査

下市築地ノ峯東通第3遺跡	: 西伯郡大山町下市 399 - 2 外	調査面積 : 120m ²
下市築地ノ峯東通第2遺跡	: 西伯郡大山町下市 397 - 7 外	調査面積 : 111m ²
下市天神ノ峯遺跡	: 西伯郡大山町下市 835 - 7 外	調査面積 : 1418.3m ²
殿河内ウルミ谷遺跡	: 西伯郡大山町殿河内 742 - 2 外	調査面積 : 66.5m ²
殿河内上ノ段大ブケ遺跡	: 西伯郡大山町殿河内 912 - 4 外	調査面積 : 200m ²
殿河内定屋ノ前遺跡	: 西伯郡 大山町殿河内 501 外 大山町住吉 360 - 29 外	調査面積 : 286m ²
住吉中平野遺跡	: 西伯郡大山町住吉 358 - 114 外	調査面積 : 214m ²
下甲退休原第1遺跡	: 西伯郡大山町下甲 1041 - 616 外	調査面積 : 213.5m ²
樋口長田遺跡	: 西伯郡大山町樋口 541 外	調査面積 : 240m ²
樋口第1遺跡	: 西伯郡大山町樋口 442 外	調査面積 : 240m ²
樋口西野末遺跡	: 西伯郡大山町八重 862 - 3 外	調査面積 : 112m ²
3. 本報告書で示す標高は、樋口西野末遺跡では3級基準点 H10 - 3 - 17 を、下市天神ノ峯遺跡では4級基準点 H19 - 4 - 105・106 を、確認調査では国土交通省が設置した近隣の基準点を基準とする標高値を使用した。方位は公共座標北を示す。磁北は、座標北に対し、樋口西野末遺跡では約7°07′、下市天神ノ峯遺跡では7°06′ 西偏する。なお、X :、Y : の数値は世界測地系に準拠した公共座標第 1 系の座標値である。
4. 本報告書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1/50,000 地形図「大山」・「赤碕」、大山町作成の1/5,000「大山町地形図」を使用した。
5. 本報告にあたり、樋口西野末遺跡の調査前・調査後航空写真撮影、調査前・調査後地形測量を業者委託した。
6. 本報告書に掲載した遺物の実測・浄書は埋蔵文化財センター及び同発掘事業室調査担当で行った。
7. 本報告書で使用した遺構・遺物写真は調査担当職員が撮影した。
8. 本報告書の編集は濱・濱本・北が行った。執筆は調査担当職員が分担して行い、目次に執筆者名を記した。
9. 発掘調査によって作成された図面・写真などの記録類、出土遺物は鳥取県埋蔵文化財センターで保管している。
10. 現地調査及び報告書作成にあたっては、大山町教育委員会に御協力いただいた。明記して深謝いたします。

凡 例

1. 遺物の注記における遺跡名には以下の略語を用い、併せて「遺構名、遺物番号、日付」を記入した。
 樋口西野末遺跡：西ノスエ 下市天神ノ峯遺跡：天シン
 下市築地ノ峯東通第3遺跡：ツキシ3 下市築地ノ峯東通第2遺跡：ツキシ2
 殿河内ウルミ谷遺跡：ウルミタニ 殿河内上ノ段大ブケ遺跡：大フケ
 殿河内定屋ノ前遺跡：サタヤノ 住吉中平野遺跡：ナカヒラ 下甲退休原第1遺跡：下タイ
 樋口長田遺跡：ヒノクチ1 樋口第1遺跡：ヒノクチ3
2. 本報告書で用いた遺構・トレンチの略号は以下のとおりである。
 SI：竪穴住居跡 SB：掘立柱建物跡 SD：溝・溝状遺構 SK：土坑 P：柱穴・ピット
 Tr：トレンチ
3. 本調査における遺構番号(新)は発掘調査時のもの(旧)と一部変更している。新旧の遺構名・番号の対応は本頁末の新旧遺構名対照表に示している。
4. 本書における実測図の縮尺については、特殊なものを除き基本的に以下の縮尺としている。
 遺構図 SB：1/80、SD・SK：1/40、P：1/20
 遺物実測図 土器：1/3・1/4、石器：1/1・2/3・1/2・1/4、鉄器：1/2、鉄滓：1/4
 確認調査トレンチ平面・断面図：1/80
5. 本書における土色・土性区分・土器色調は、基本的には『新版 標準土色帖』による。
6. 遺構図・遺物実測図に用いたトーン及び記号は、特に説明がない限り以下のとおりである。
 ■：赤彩・赤色顔料付着範囲 ■：砥面 S：石器・礫 F：鉄器・鉄滓
7. 遺物実測図の断面は須恵器を黒塗りとし、それ以外のものは白抜きで示している。また、遺物実測図中における記号は以下のとおりである。
 ：ケズリの方向(砂粒の動き)
8. 遺物観察表の法量記載における は推定復元値、 は現存値を示す。
9. 本報告書における遺構・遺物の時期決定は下記参考文献を参照した。

参考文献

- 清水真一 1992 「因幡・伯耆地域『弥生土器の様式と編年 - 山陽・山陰編 - 』木耳社
- 巽淳一郎 1979 「 - 2 土器類『伯耆国跡発掘調査概報(第5・6次)』倉吉市教育委員会
- 角田徳幸 2003 「第5章まとめ 第3節奈良・平安時代の施設群『史跡出雲国府跡 - 1 - 』鳥根県教育委員会
- 丹羽野裕 2005 「出雲における9～10世紀の須恵器の様相 - 窯跡とその出土資料を中心に - 、『第4回山陰中世土器検討会資料集 平安時代前期の土器様相 - 中国地方を中心に - 』山陰中世土器検討会
- 中森 祥 2005 「伯耆における9・10世紀の様相 - 西伯耆を中心に - 、『第4回山陰中世土器検討会資料集 平安時代前期の土器様相 - 中国地方を中心に - 』山陰中世土器検討会
- 加藤裕一ほか 2009 「SD11出土の土器について『坂長第7遺跡』鳥取県教育文化財団

表1 樋口西野末遺跡新旧遺構名対照表

旧	新	旧	新	旧	新
P34	SB 1(旧) - P 1	P 9	SB 1(新) - P 1	P22	SB 1(新) - P10
P27	SB 1(旧) - P 2	P39	SB 1(新) - P 2	P36	SB 1(新) - P11
P28	SB 1(旧) - P 3	P20	SB 1(新) - P 3	P37	SB 1(新) - P12
P14	SB 1(旧) - P 4	P15	SB 1(新) - P 4	P38	SB 1(新) - P13
P10	SB 1(旧) - P 6	P17	SB 1(新) - P 5	P26	SB 2 - P 1
P29	SB 1(旧) - P 7	P11	SB 1(新) - P 6	P21	SB 2 - P 2
P30	SB 1(旧) - P 8	P25	SB 1(新) - P 7	P16	SB 2 - P 3
P31	SB 1(旧) - P 9	P24	SB 1(新) - P 8	P19	SB 2 - P 4
P35	SB 1(旧) - P10	P23	SB 1(新) - P 9		

目次

序	
序文	
例言	
凡例	
第1章 調査の経緯	
第1節 調査に至る経緯..... (濱)1	
第2節 調査の方法と経過..... (濱)2	
第3節 調査体制..... (濱)4	
第2章 遺跡の位置と環境	
第1節 地理的環境..... (濱)5	
第2節 歴史的環境..... (濱)5	
第3章 樋口西野末遺跡の調査	
第1節 遺跡の立地と層序..... (濱)9	
第2節 調査の概要..... (濱)9	
第3節 古代の調査..... 13	
1 概要..... (濱)13	
2 掘立柱建物跡..... (濱本)13	
3 土坑..... (濱本)16	
4 ピット群..... (野島・濱)18	
5 その他の遺構..... (濱本)20	
第4節 時期不明の遺構 (濱・濱本・野島)21	
第5節 遺構外出土遺物..... (野島)25	
第6節 樋口西野末遺跡のまとめ..... (濱)28	
第4章 下市天神ノ峯遺跡の調査	
第1節 遺跡の立地..... (北)31	
第2節 調査の経過..... (北)31	
第3節 調査地内の堆積..... (北)32	
第4節 調査の成果..... 32	
1 概要..... (北)32	
2 土坑..... (原田)33	
第5章 確認調査の概要	
第1節 概要..... (北)34	
第2節 下市築地ノ峯東通第3遺跡 の調査..... (原田)35	
第3節 下市築地ノ峯東通第2遺跡 の調査..... (岡田)38	
第4節 下市天神ノ峯遺跡の調査..... (北)45	
第5節 殿河内ウルミ谷遺跡の調査 (岡田・原田)50	
第6節 殿河内上ノ段大ブケ遺跡の調査 (北)56	
第7節 殿河内定屋ノ前遺跡の調査 (北・岡田)64	
第8節 住吉中平野遺跡の調査..... (原田)78	
第9節 下甲退休原第1遺跡の調査 (岡田)83	
第10節 樋口長田遺跡の調査..... (北)89	
第11節 樋口第1遺跡の調査..... (北)98	
第12節 樋口西野末遺跡の調査..... (岡田)105	
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図	中山名和道路関係遺跡位置図.....	1	下市築地ノ峯東通第2遺跡	
第2図	遺跡位置図.....	5	第38図	トレンチ位置図および基本層序模式図 ...38
第3図	樋口周辺地形図.....	6	1区	
第4図	周辺遺跡分布図.....	7	第39図	Tr.240
樋口西野末遺跡(本調査)			第40図	Tr.2 出土遺物40
第5図	樋口西野末遺跡調査前地形測量図.....	10	第41図	Tr.4 出土遺物40
第6図	樋口西野末遺跡調査地土層断面図.....	11	第42図	Tr.440
第7図	樋口西野末遺跡遺構配置図.....	12	第43図	Tr.541
第8図	SB1(旧).....	13	第44図	Tr.5 出土遺物41
第9図	SB1(新).....	14	第45図	Tr.641
第10図	SB1・2出土土器.....	15	2区	
第11図	SB2出土石器・楕円礫.....	15	第46図	Tr.142
第12図	SB2.....	16	第47図	Tr.242
第13図	SK3および出土遺物.....	16	第48図	Tr.343
第14図	SX1.....	17	第49図	Tr.444
第15図	ピット群および出土遺物.....	19	下市天神ノ峯遺跡(確認調査)	
第16図	集石遺構.....	20	第50図	トレンチ位置図 および基本層序模式図45
第17図	集石遺構出土土器.....	20	第51図	Tr.447
第18図	SK2.....	21	第52図	Tr.4 出土遺物47
第19図	SD2.....	21	第53図	Tr.5 出土遺物47
第20図	SD3.....	21	第54図	Tr.547
第21図	ピット列(1).....	22	第55図	Tr.948
第22図	ピット列(2).....	23	第56図	Tr.1048
第23図	被熱面.....	24	第57図	Tr.10出土遺物48
第24図	層出土石器.....	25	第58図	Tr.1648
第25図	層出土土器.....	25	第59図	その他のトレンチ出土遺物.....49
第26図	・層出土遺物.....	26	殿河内ウルミ谷遺跡	
第27図	攪乱土出土遺物.....	27	第60図	トレンチ位置図.....50
第28図	本調査地および確認調査溝SD1.....	28	第61図	Tr.252
下市天神ノ峯遺跡(本調査)			第62図	Tr.2 出土遺物53
第29図	遺跡位置図.....	31	第63図	Tr.453
第30図	調査地の基本層序.....	32	第64図	Tr.4 出土遺物54
第31図	調査地の位置.....	32	殿河内上ノ段大ブケ遺跡	
第32図	調査地平面図・断面図 およびSK1遺構図.....	33	第65図	トレンチ位置図 および基本層序模式図56
確認調査			第66図	Tr.158
第33図	確認調査遺跡位置図.....	34	第67図	Tr.1 出土遺物58
下市築地ノ峯東通第3遺跡			第68図	Tr.359
第34図	トレンチ位置図および基本層序模式図 ...35		第69図	Tr.559
第35図	Tr.3.....	36	第70図	Tr.5 出土遺物59
第36図	Tr.4.....	37	第71図	Tr.660
第37図	Tr.6.....	37	第72図	Tr.6 出土遺物61

殿河内定屋ノ前遺跡	
第73図	トレンチ位置図 および基本層序模式図 64
第74図	Tr. 1 66
第75図	Tr. 4 67
第76図	Tr. 6 68
第77図	Tr. 6 出土遺物 68
第78図	Tr. 9 69
第79図	Tr. 9 出土遺物 69
第80図	Tr.11 70
第81図	Tr.11出土遺物 70
第82図	Tr.12 71
第83図	Tr.13 72
第84図	Tr.14 73
第85図	Tr.15 73
第86図	Tr.16・17 74
第87図	Tr.16・17出土遺物 74
第88図	Tr.21 75
第89図	その他のトレンチ出土遺物..... 75
住吉中平野遺跡	
第90図	トレンチ位置図 および基本層序模式図 78
第91図	Tr. 1 80
第92図	Tr. 4 80
第93図	Tr. 5 81
第94図	Tr. 8 81
第95図	Tr. 9 82
第96図	Tr.11 82
下甲退休原第1遺跡	
第97図	トレンチ位置図 および基本層序模式図 83
第98図	Tr. 1 85
第99図	Tr. 3 85
第100図	Tr. 5 86
第101図	Tr. 6 86
第102図	Tr. 8 87
第103図	Tr.12..... 88

第104図	Tr.13..... 88
樋口長田遺跡	
第105図	トレンチ位置図 および基本層序模式図 89
第106図	Tr. 1 91
第107図	Tr. 1 出土遺物..... 91
第108図	Tr. 7 91
第109図	Tr. 7 出土遺物..... 91
第110図	Tr. 8 92
第111図	Tr. 8 出土遺物..... 92
第112図	Tr. 9 93
第113図	Tr. 9 出土遺物..... 93
第114図	Tr.11..... 94
第115図	Tr.11出土遺物..... 94
第116図	その他のトレンチ出土遺物(1)..... 95
第117図	その他のトレンチ出土遺物(2)..... 95
樋口第1遺跡	
第118図	トレンチ位置図 および基本層序模式図 98
第119図	Tr. 2 100
第120図	Tr. 2 出土遺物..... 100
第121図	Tr. 4 100
第122図	Tr. 4 出土遺物..... 100
第123図	Tr. 7 101
第124図	Tr. 7 出土遺物..... 101
第125図	Tr. 9 101
第126図	Tr. 9 出土遺物..... 101
第127図	その他のトレンチ出土遺物 102
樋口西野末遺跡(確認調査)	
第128図	トレンチ位置図 および基本層序模式図..... 105
第129図	Tr.17..... 107
第130図	Tr.17出土遺物..... 108
第131図	Tr.18..... 109
第132図	Tr.19..... 110

挿表目次

樋口西野末遺跡(本調査)	
表 1	樋口西野末遺跡新旧遺構名対照表
表 2	ピット計測表..... 19
表 3	樋口西野末遺跡土器観察表(1)..... 29
表 4	樋口西野末遺跡土器観察表(2)..... 30
表 5	樋口西野末遺跡石器・石製品観察表..... 30
確認調査	
表 6	確認調査成果一覧..... 34

下市築地ノ峯東通第3遺跡	
表 7	トレンチ一覧表..... 36
下市築地ノ峯東通第2遺跡	
表 8	トレンチ一覧表..... 39
表 9	出土土器観察表..... 44
表 10	出土石器観察表..... 44
下市天神ノ峯遺跡(確認調査)	
表 11	トレンチ一覧表..... 46

表12	出土土器観察表.....	49
殿河内ウルミ谷遺跡		
表13	トレンチ一覧表.....	51
表14	出土土器観察表.....	55
殿河内上ノ段大ブケ遺跡		
表15	トレンチ一覧表.....	57
表16	出土土器観察表(1).....	62
表17	出土土器観察表(2).....	63
殿河内定屋ノ前遺跡		
表18	トレンチ一覧表.....	65
表19	出土石器観察表.....	75
表20	出土鉄製品観察表.....	76
表21	出土銅銭観察表.....	76
表22	出土土器観察表(1).....	76
表23	出土土器観察表(2).....	77
住吉中平野遺跡		
表24	トレンチ一覧表.....	79

下甲退休原第1遺跡		
表25	トレンチ一覧表.....	84
表26	出土土器観察表.....	88
樋口長田遺跡		
表27	トレンチ一覧表.....	90
表28	出土石器観察表.....	95
表29	出土鉄滓観察表.....	95
表30	出土土器観察表(1).....	96
表31	出土土器観察表(2).....	97
樋口第1遺跡		
表32	トレンチ一覧表.....	99
表33	出土石器観察表.....	103
表34	出土土器観察表(1).....	103
表35	出土土器観察表(2).....	104
樋口西野末遺跡(確認調査)		
表36	トレンチ一覧表.....	106
表37	出土土器観察表(1).....	111
表38	出土土器観察表(2).....	112

巻頭図版目次

巻頭図版 1	1	樋口西野末遺跡調査地遠景(調査後：北から)	巻頭図版 2	1	樋口西野末遺跡赤彩土師器・小円礫出土状況
	2	樋口西野末遺跡SB1・2完掘状況(東から)		2	樋口西野末遺跡赤彩土師器(10)と小円礫

文中写真目次

写真 1	樋口西野末遺跡(本調査)調査風景.....	3
写真 2	樋口第1遺跡調査風景.....	3

図版目次

樋口西野末遺跡(本調査)					
PL. 1	1	樋口西野末遺跡全景(調査前：南から)	3	SK 3 土層断面(北東から)	
	2	樋口西野末遺跡全景(調査後：西から)	4	SK 3 完掘状況(北東から)	
PL. 2	1	樋口西野末遺跡俯瞰(調査後：右が北)	5	SX 1 検出状況(南から)	
	2	樋口西野末遺跡完掘状況(北東から)	6	被熱面検出状況(東から)	
PL. 3	1	層範囲全景(南東から)	PL. 7	1	ピット列 1 ~ 4 完掘状況(北から)
	2	層範囲全景(北から)		2	ピット列 1 ~ 4 完掘状況(部分：北から)
	3	調査区北壁土層断面(南西から)		3	ピット列 1 ~ 4 完掘状況(北東から)
	4	調査区東壁(南側)土層断面(北西から)		4	C 1 グリッドピット群完掘状況(北東から)
PL. 4	1	SB 1(旧)完掘状況(南から)		5	P 3 ~ 8 完掘状況(東から)
	2	SB 1(新)完掘状況(北東から)	PL. 8	1	SB、ピット、SK 3 出土遺物
PL. 5	1	SB 1(旧)- P 9 土層断面(東から)		2	集石遺構出土遺物
	2	SB 1(新)- P 1 土層断面(西から)	PL. 9	集石遺構・遺構外出土土器(土師器・弥生土器)	
	3	SB 2 - P 2 土層断面(西から)	PL. 10	1	遺構外出土土器(須恵器)
	4	SB 2 - P 6 土層断面(西から)		2	SB 1 出土楕円礫、層出土石器
	5	赤彩土師器および小円礫出土状況(東から)	下市天神ノ峯遺跡(本調査)		
PL. 6	1	SD 2 完掘状況(北西から)			
	2	SD 3 完掘状況(北から)			

- PL.11 1 本調査地周辺完掘状況(南西から)
 2 SK 1完掘状況(南東から)
 3 SK 1土層断面(南から)
 4 SK 1底面ピット検出状況(南東から)
 5 SK 1底面ピット土層断面(北西から)

確認調査

下市築地ノ峯東通第3遺跡

- PL.12 1 Tr.1完掘状況(南西から)
 2 Tr.2完掘状況(北西から)
 3 Tr.3完掘状況(南東から)
 4 Tr.4ローム上面検出状況(北西から)
 5 Tr.4北壁土層断面(南東から)
 6 Tr.4 SK 1(北西から)
 7 Tr.5完掘状況(南東から)
 8 Tr.6完掘状況(南西から)

下市築地ノ峯東通第2遺跡

- PL.13 1 1区Tr.1東壁土層断面(南西から)
 2 1区Tr.2北壁土層断面(南東から)
 3 1区Tr.3北壁土層断面(南東から)
 4 1区Tr.4東壁土層断面(南西から)
 5 1区Tr.5西壁土層断面(北東から)
 6 1区Tr.6東壁土層断面(南西から)
 7 下市築地ノ峯東通第2遺跡出土遺物
- PL.14 1 2区Tr.1完掘状況(北東から)
 2 2区Tr.2完掘状況(北東から)
 3 2区Tr.2南壁土層断面(北東から)
 4 2区Tr.2北壁土層断面(南東から)
 5 2区Tr.3完掘状況(南東から)
 6 2区Tr.4完掘状況(南東から)

下市天神ノ峯遺跡

- PL.15 1 下市天神ノ峯遺跡調査前(南西から)
 2 Tr.1完掘状況(南西から)
 3 Tr.2完掘状況(南西から)
 4 Tr.3完掘状況(北西から)
 5 Tr.4完掘状況(北西から)
- PL.16 1 Tr.5完掘状況(南東から)
 2 Tr.6ローム上面検出状況(南東から)
 3 Tr.7完掘状況(北西から)
 4 Tr.8完掘状況(南西から)
 5 Tr.9完掘状況(南東から)
 6 Tr.10南壁土層断面(北東から)
 7 Tr.11ローム上面検出状況(北西から)
 8 Tr.12完掘状況(南東から)
- PL.17 1 Tr.13完掘状況(南西から)
 2 Tr.14完掘状況(南西から)
 3 Tr.15ローム上面検出状況(北東から)
 4 Tr.16北壁土層断面(南東から)
 5 Tr.17完掘状況(南東から)
 6 Tr.18完掘状況(南西から)
 7 Tr.19完掘状況(南東から)
 8 Tr.20完掘状況(南西から)
- PL.18 1 Tr.21完掘状況(東西方向：西から)
 2 Tr.21完掘状況(南北方向：北から)
 3 Tr.22完掘状況(西から)

- 4 Tr.23完掘状況(北西から)
 5 Tr.25完掘状況(東西方向：北西から)
 6 Tr.25完掘状況(南北方向：南東から)
 7 下市天神ノ峯遺跡出土遺物

殿河内ウルミ谷遺跡

- PL.19 1 Tr.2製炭土坑付近東壁土層断面(北西から)
 2 Tr.2製炭土坑土層断面(東から)
 3 Tr.2完掘状況(北東から)
- PL.20 1 Tr.1完掘状況(南西から)
 2 Tr.3東壁土層断面(南西から)
 3 Tr.4北壁土層断面(南東から)
 4 Tr.5完掘状況(南西から)
 5 Tr.4出土須恵器(1)
 6 Tr.4出土須恵器(2)
 7 Tr.4出土土師器
 8 Tr.4出土土製品
- PL.21 殿河内ウルミ谷遺跡出土遺物

殿河内上ノ段大ブケ遺跡

- PL.22 1 殿河内上ノ段大ブケ遺跡調査前(南東から)
 2 殿河内上ノ段大ブケ遺跡調査前(北西から)
- PL.23 1 Tr.1北壁土層断面(南東から)
 2 Tr.2南壁土層断面(北東から)
 3 Tr.3北壁土層断面(南東から)
 4 Tr.4北壁土層断面(南東から)
 5 Tr.5完掘状況(南東から)
 6 Tr.5北～東壁土層断面(南西から)
 7 Tr.6完掘状況(南西から)
 8 Tr.6北壁土層断面(南東から)
- PL.24 1 Tr.7完掘状況(南西から)
 2 Tr.8北壁土層断面(南東から)
 3 Tr.9完掘状況(南西から)
 4 Tr.10完掘状況(北東から)
 5 殿河内上ノ段大ブケ遺跡Tr.1・5出土遺物
- PL.25 殿河内上ノ段大ブケ遺跡Tr.6出土遺物

殿河内定屋ノ前遺跡

- PL.26 1 Tr.1 P1～4検出状況(北西から)
 2 Tr.1 P1・2土層断面(西から)
 3 Tr.1 P3土層断面(西から)
 4 Tr.1 P4土層断面(南から)
 5 Tr.1完掘状況(南西から)
- PL.27 1 Tr.2完掘状況(南西から)
 2 Tr.3完掘状況(南西から)
 3 Tr.4北壁土層断面(南東から)
 4 Tr.4 SD 1(南東から)
 5 Tr.6完掘状況(南西から)
 6 Tr.7完掘状況(南西から)
 7 Tr.8完掘状況(南西から)
 8 Tr.9完掘状況(南西から)
- PL.28 1 Tr.10北壁土層断面(南東から)
 2 Tr.11 SI 1完掘状況(南東から)

- 3 Tr.11遺構面検出状況(南西から)
- 4 Tr.11 SI1土器出土状況(南西から)
- 5 Tr.11 SI1土器出土状況(北から)
- 6 殿河内定屋ノ前遺跡Tr.11出土土器
- PL.29 1 Tr.12北壁土層断面(南東から)
- 2 Tr.13北壁土層断面(南東から)
- 3 Tr.13道路状遺構(北から)
- 4 Tr.13西側ピット完掘状況(南から)
- 5 Tr.14北壁土層断面(南東から)
- 6 Tr.14道路状遺構(北から)
- 7 Tr.15北壁土層断面(南東から)
- 8 Tr.15道路状遺構完掘状況(北から)
- PL.30 1 殿河内定屋ノ前遺跡道路際壁面(西側：北東から)
- 2 殿河内定屋ノ前遺跡最西部調査前(北西から)
- 3 Tr.16・17完掘状況(北西から)
- 4 Tr.18北壁土層断面(南西から)
- 5 Tr.19北壁土層断面(南西から)
- 6 Tr.20完掘状況(南西から)
- 7 Tr.21北壁土層断面(南西から)
- PL.31 殿河内定屋ノ前遺跡出土遺物

住吉中平野遺跡

- PL.32 1 住吉中平野遺跡調査前(西から)
- 2 Tr.1完掘状況(南西から)
- 3 Tr.2完掘状況(南西から)
- 4 Tr.3完掘状況(南東から)
- 5 Tr.4完掘状況(南東から)
- PL.33 1 Tr.5完掘状況(南西から)
- 2 Tr.6完掘状況(南西から)
- 3 Tr.7・8周辺調査前(西から)
- 4 Tr.7完掘状況(北東から)
- 5 Tr.8完掘状況(南西から)
- 6 Tr.9完掘状況(南東から)
- 7 Tr.10完掘状況(南西から)
- 8 Tr.11完掘状況(南東から)

下甲退休原第1遺跡

- PL.34 1 下甲退休原第1遺跡調査前(東から)
- 2 Tr.1完掘状況(南西から)
- 3 Tr.2完掘状況(南西から)
- 4 Tr.3完掘状況(南西から)
- 5 Tr.4完掘状況(南西から)
- 6 Tr.5完掘状況(北東から)
- 7 Tr.6ローム上面検出状況(北西から)
- 8 Tr.7ローム上面検出状況(南西から)
- PL.35 1 Tr.8北壁土層断面(南東から)
- 2 Tr.8 SK1検出状況(南西から)
- 3 Tr.8 SK1土層断面(南西から)
- 4 Tr.9北壁土層断面(南東から)
- 5 Tr.10北壁土層断面(南東から)
- 6 Tr.11北壁土層断面(南東から)
- 7 Tr.12北壁土層断面(南西から)
- PL.36 1 Tr.13北壁土層断面(南東から)
- 2 Tr.13 SD1土層断面(北から)
- 3 Tr.14北壁土層断面(南東から)

- 4 Tr.15北壁土層断面(南東から)
- 5 下甲退休原第1遺跡出土土器

樋口長田遺跡

- PL.37 1 樋口長田遺跡調査前(南東から)
- 2 Tr.1北壁土層断面(南東から)
- 3 Tr.2北壁土層断面(南東から)
- 4 Tr.3北壁土層断面(南東から)
- 5 Tr.4完掘状況(南西から)
- 6 Tr.5完掘状況(南東から)
- 7 Tr.6北壁土層断面(南東から)
- PL.38 1 Tr.7北壁土層断面(南東から)
- 2 Tr.8北壁土層断面(南東から)
- 3 Tr.9北壁土層断面(南東から)
- 4 Tr.10北壁土層断面(南東から)
- 5 Tr.11北壁土層断面(南東から)
- 6 Tr.12北壁土層断面(南東から)
- 7 樋口長田遺跡出土土製品
- 8 樋口長田遺跡出土鉄滓
- PL.39 樋口長田遺跡出土遺物

樋口第1遺跡

- PL.40 1 Tr.2完掘状況(南東から)
- 2 Tr.2南壁土層断面(北東から)
- 3 Tr.1完掘状況(南西から)
- 4 Tr.3北壁土層断面(南東から)
- 5 Tr.4完掘状況(南東から)
- 6 Tr.4北壁土層断面(南西から)
- 7 Tr.5完掘状況(南東から)
- 8 Tr.6北壁土層断面(南東から)
- PL.41 1 樋口第1遺跡Tr.6～9付近調査前(北から)
- 2 Tr.7完掘状況(南西から)
- 3 Tr.7北壁土層断面(南東から)
- 4 Tr.8完掘状況(南西から)
- 5 Tr.8北壁土層断面(南東から)
- PL.42 1 Tr.9完掘状況(南西から)
- 2 Tr.9北壁土層断面(南東から)
- 3 Tr.10完掘状況(南西から)
- 4 Tr.13完掘状況(南西から)
- 5 Tr.14完掘状況(南東から)
- 6 Tr.14北壁土層断面(南西から)
- 7 樋口第1遺跡Tr.14出土遺物
- PL.43 樋口第1遺跡出土遺物

樋口西野末遺跡

- PL.44 1 Tr.16完掘状況(南西から)
- 2 Tr.16北壁土層断面(南東から)
- 3 Tr.17完掘状況(南西から)
- 4 Tr.17北壁土層断面(南東から)
- 5 Tr.18完掘状況(南西から)
- 6 Tr.18北壁土層断面(南東から)
- 7 Tr.19完掘状況(南西から)
- 8 Tr.19北壁土層断面(南東から)
- PL.45 樋口西野末遺跡出土遺物

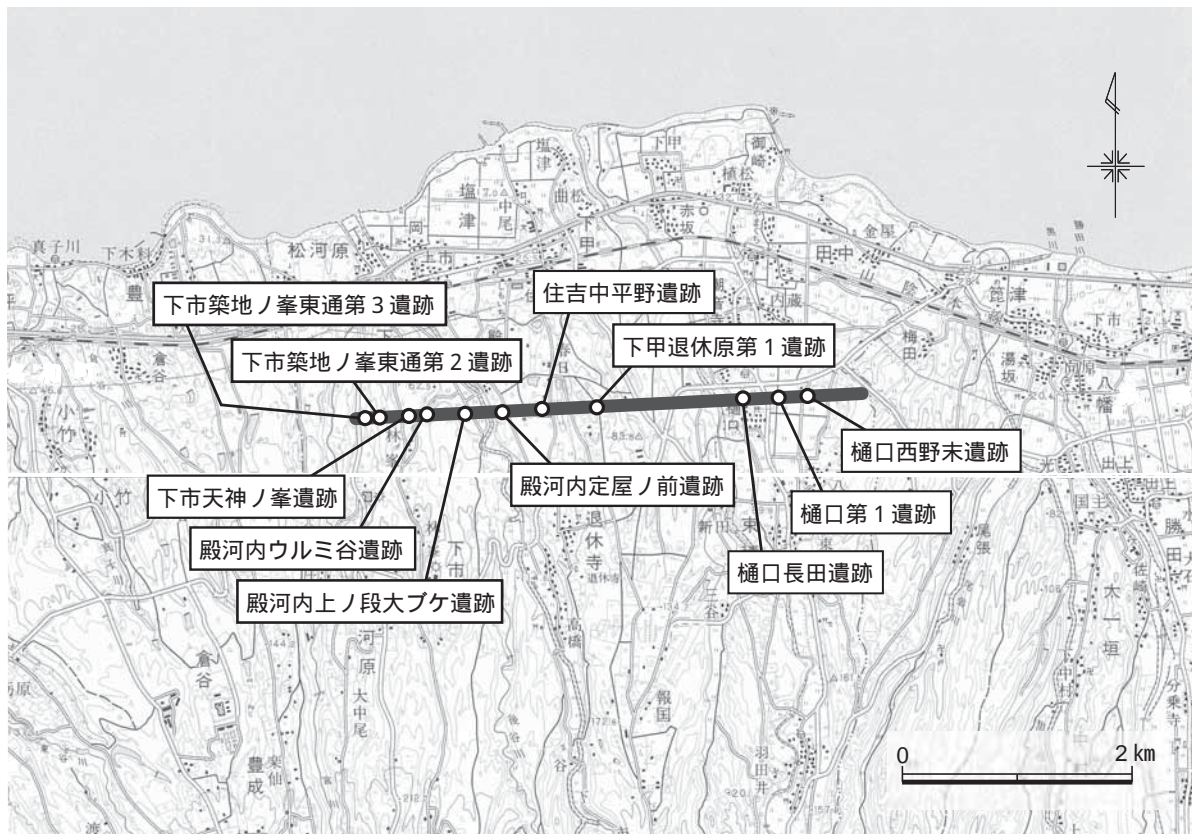
第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

本調査は、平成21年度に一般国道9号中山名和道路の改築に伴い実施した周知の埋蔵文化財包蔵地(以下「遺跡」)の本発掘調査及び確認調査である。本発掘調査を実施した遺跡は樋口西野末遺跡(大山町八重)及び下市天神ノ峯遺跡(同町下市)である。確認調査を実施した遺跡は、下市築地ノ峯東通第3遺跡・下市築地ノ峯東通第2遺跡・下市天神ノ峯遺跡(同町下市)、殿河内ウルミ谷遺跡・殿河内上ノ段大ブケ遺跡・殿河内定屋ノ前遺跡(同町殿河内)、住吉中平野遺跡(同町住吉)、下甲退休原第1遺跡(同町下甲)、樋口長田遺跡・樋口第1遺跡・樋口西野末遺跡(同町八重・樋口)である。

山陰地方では、国道9号線の交通混雑緩和、荒天時の交通障害解消、災害時の緊急輸送の代替道路確保及び将来の国土幹線道路整備として、山陰自動車道の整備事業が進められ、鳥取県西部地域では、米子道路、名和淀江道路が自動車専用道路として一部供用されている。

このうち、大山町を通る中山名和道路の計画地内及び隣接地には、多くの遺跡があり、建設に先立って計画地内の遺跡の有無・範囲・内容等を確認する必要性が生じた。このため、平成19年度から大山町教育委員会によって、国庫補助事業として逐次試掘・確認調査が行われた。試掘・確認調査の結果を受け、文化財保護法に基づく手続きを踏まえ、鳥取県埋蔵文化財センターが調査主体となり、樋口西野末遺跡の一部及び下市天神ノ峯遺跡の本発掘調査を実施することとなった。



第1図 中山名和道路関係遺跡位置図

第1章 調査の経緯

第2節 調査の方法と経過

1 調査地の名称と調査方法

樋口西野末遺跡の調査前の状況は畑地である。調査に先立ち、世界測地系公共座標第 系に載るよう調査区内に10m方眼の基準杭を設定し、グリッドを設けた。グリッド名は、東西南北軸交点の北東杭名を採った。座標は、C 1 杭(X: - 54180m、Y: - 66840m)、E 2 杭(X: - 54200m、Y: - 66850m) などとなった。標高値は、国土交通省が設置した3級基準点H10 - 3 - 17の66.589mを使用した。

下市天神ノ峯遺跡の調査前の状況は畑地および果樹園である。座標は国土交通省が設置した4級基準点H19 - 4 - 105(X: - 54287.627m、Y: - 70371.293m、Z:72.186)及びH19 - 4 - 106(X: - 54280.167 m、Y: - 70428.314m、Z:70.176)を使用した。

確認調査は、対象となる大山町八重から同町下市までの4.3kmの区間内にある遺跡について、幅 1 ~ 2 m、長さ 5 ~ 10m程度のトレンチを設定して調査を行っている。座標は国土交通省が設置した近隣の基準点を使用した。

いずれの遺跡の調査も、検出した遺構・遺物の記録には光波トランシット及び自動レベルを用い、簡易遣り方測量及び光波トランシットによる測量を行った。現地での写真撮影は35mm判、ブローニー(6 × 7)判により、地上又は写真用足場上で行った。また、樋口西野末遺跡の調査では、調査前状況及び調査後状況写真については、ラジコンヘリコプターからの空中写真撮影(ブローニー判カメラ使用)も併せて行った。遺物写真撮影は、ブローニー(6 × 7)判及び4 × 5 判カメラを用いた。いずれも白黒ネガフィルム並びにカラーポジフィルムを使用し、適宜デジタルカメラも使用した。

樋口西野末遺跡の調査は濱、濱本、野島が担当し、下市天神ノ峯遺跡及び確認調査は北、岡田、原田が担当した。

2 本発掘調査の経過

樋口西野末遺跡・下市天神ノ峯遺跡の両遺跡とも、調査は後述する確認調査の結果を受け本発掘調査を実施することとなった。

樋口西野末遺跡の調査は9月24日に調査前航空写真撮影を行い、併せて調査前地形測量を開始した。9月30日から10月1日までの重機による表土剥ぎ作業後、10月13日から発掘作業員の稼働を開始し、11月27日まで検出・掘下げ作業を行った。11月26日に調査後航空写真撮影を行い、12月2日の調査後地形測量の実施をもってすべての発掘調査に係る作業を終了した。調査の結果、奈良時代末から平安時代初頭の掘立柱建物跡2棟、溝2条、土坑3基、ピット列4条等を確認した。調査対象面積は1,372m²である。

下市天神ノ峯遺跡の調査は、11月24日に発掘作業員によって掘削を開始し、11月25日に調査後完掘撮影を行い、発掘調査に係る作業をすべて終了した。調査の結果、落とし穴1基を確認した。調査対象面積は20m²である。

3 確認調査の経過

4月16日から6月27日にかけて、樋口長田遺跡・樋口第1遺跡・樋口西野末遺跡においてトレンチ28本(延べ592m²)を設定し、調査を行った。その結果、樋口西野末遺跡で古代の溝、加工段を確認した。5月26日、7月2日には、鳥取県教育委員会事務局文化財課と協議し、樋口西野末遺跡については遺跡

が存在していると判断し、八重地内の範囲について本発掘調査を行うこととなった。

6月8日から8月17日にかけて、殿河内定屋ノ前遺跡・住吉中平野遺跡においてトレンチ32本(延べ500m²)を設定し、調査を行った。その結果、殿河内定屋ノ前遺跡で道路状遺構や弥生時代の竪穴住居跡・ピットを確認した。住吉中平野遺跡では遺構は確認できなかった。

8月11日から10月16日にかけて下市天神ノ峯遺跡・下市築地ノ峯東通第2遺跡・下市築地ノ峯東通第3遺跡においてトレンチ41本(延べ1649.3m²)を設定し、調査を行った。その結果、下市天神ノ峯遺跡で土坑1基、下市築地ノ峯東通第2遺跡・下市築地ノ峯東通第3遺跡で土坑3基及び複数の遺物包含層を確認した。また、下市天神ノ峯遺跡では、検出した土坑の他に遺構が存在する可能性は極めて低いと判断され、検出した土坑の本発掘調査を行うこととなった。

10月6日から11月27日にかけて殿河内上ノ段大ブケ遺跡・殿河内ウルミ谷遺跡・下甲退休原第1遺跡においてトレンチ30本(延べ480m²)を設定し、調査を行った。その結果、殿河内上ノ段大ブケ遺跡では縄文時代の遺物包含層を、殿河内ウルミ谷遺跡では製炭土坑やテラス状遺構を、下甲退休原第1遺跡では落とし穴や溝状遺構を確認した。



写真1 樋口西野末遺跡(本調査)調査風景



写真2 樋口第1遺跡調査風景

第1章 調査の経緯

第3節 調査体制

下記の体制で発掘調査、報告書作成を行った。

鳥取県埋蔵文化財センター

所 長 久保 穰二郎
次 長 中尾 淳一(兼総務係長)
総 務 係
副 主 幹 福島 良
主 事 浜辺 奈都美

発掘事業室

室 長 山柁 雅美(兼調整係長)
調 整 係
発掘調査員 岩垣 命

調査担当(琴浦調査事務所)

副 主 幹 牧本 哲雄(総括責任者)
副 主 幹 瀨 隆造(樋口西野末遺跡調査担当責任者)
文化財主事 北 浩明(確認調査調査担当責任者)、瀨本 利幸、岡田 裕之、
野島 智実
発掘調査員 原田 克美

調査日誌抄

樋口西野末遺跡	6月8日～7月30日	殿河内定屋ノ前遺跡確認調査
9月24日 調査前航空写真撮影、調査前地形測量開始	7月22日～8月17日	住吉中平野遺跡確認調査
9月30日 表土剥ぎ開始	8月11日～10月16日	下市天神ノ峯遺跡・下市築地ノ峯東通第2遺跡・下市築地ノ峯東通第3遺跡確認調査
10月13日 発掘作業員稼働開始	10月6日～11月27日	殿河内ウルミ谷遺跡確認調査
11月26日 調査後航空写真撮影	10月16日～10月30日	殿河内上ノ段大ブケ遺跡確認調査
12月2日 調査後地形測量終了	11月5日～11月27日	下甲退休原第1遺跡確認調査
下市天神ノ峯遺跡・確認調査	11月24日・11月25日	下市天神ノ峯遺跡本発掘調査
4月16日～5月21日 樋口長田遺跡確認調査		
4月27日～6月16日 樋口第1遺跡・樋口西野末遺跡(樋口・八重地内)確認調査		
5月25日～6月27日 樋口西野末遺跡(八重地内)確認調査		

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

樋口西野末遺跡・下市天神ノ峯遺跡が所在する大山町は、鳥取県西部、西伯郡の北東部を占める位置にあり、県庁所在地の鳥取市からは西へ約60km、県西部中核都市の米子市に隣接する。町域は、南端の大山(1,729m)を頂点に、船上山(615m)から金屋付近の日本海に至る線を東辺とし、西辺は大山を頂点に下楨原・孝霊山(751m)を結び保田付近の日本海に至る、不整逆三角状に広がる形を呈す。東西約15km、南北約20km、総面積は約189.8km²を測り、人口は18,148人(平成23年2月)の農畜産漁業・観光を主な産業にする町である。

本町の地勢は、大山山系から放射状に流れる小河川により浸食され残った、手指状に延びる台地上の尾根と急峻な小渓谷が繰り返す火山性台地と、甲川、下市川、真子川、名和川、阿弥陀川流域に発達した平野部からなる。平野部は、肥沃な黒ボク地帯で、特に阿弥陀川流域は県内でも屈指の広さとなる扇状地を形成している。台地は、古期扇状地堆積物層上に主に大山テフラの堆積したもので、海岸線付近まで延びている。町内には、前述の大山山系に源流を発する河川の他、大小計12本の川が日本海に注いでいる。

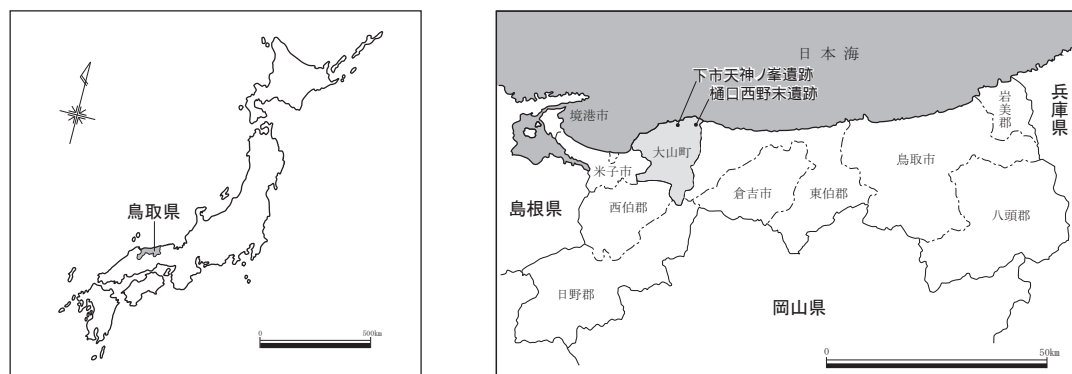
樋口西野末遺跡は、大山町の東端で琴浦町との町境付近、海岸線から南に1.9kmにある標高約70mの台地上にある。この台地は大山から北へ向かって延びる尾根に挟まれるように扇状に広がっており、約900m西には甲川が流れている。同遺跡は台地の東端付近に位置している。

下市天神ノ峯遺跡は、大山町の東側で、海岸線から南に1.7kmにある標高約72mの丘陵上にある。大山から北へ向かって延びる丘陵の先端付近に位置し、約500m東には下市川が、約500m西には宮川が流れている。

第2節 歴史的環境

ここでは、樋ノ口西野末遺跡・下市天神ノ峯遺跡の所在する大山町東部(旧中山町)を中心に、隣接する地域も含めた遺跡の概要を述べる。

旧石器時代 鳥取県下の旧石器資料は15遺跡で確認されている。梅田萱峯遺跡(73)ではナイフ形石器の可能性のある資料が、本来の位置を遊離した状態で出土している。



第2図 遺跡位置図

第2章 遺跡の位置と環境



第3図 樋口周辺地形図

縄文時代 当該地域は、県内においてもこの時期の遺跡が多数存在する地域である。草創期では、羽田井萩原(石立)で尖頭器が表採されている。また、住吉第2遺跡(48)では有茎尖頭器が、細工塚遺跡(31)では局部磨製石斧が出土している。早期では、遺構は伴わないが赤坂後口山遺跡(46)、退休寺飛渡り遺跡(53)、上大山第1遺跡(22)、角塚遺跡(18)などで押型文土器などが出土している。前期では、石器製作を行っていたと推定される下市築地ノ峯東通第2遺跡(33)がある。中期では、貯蔵穴が確認された細工塚遺跡がある。後期では、南原千軒遺跡(82)で石囲い炉をもつ竪穴住居跡が検出されている。遺構外から土偶が出土しており、今朝平タイプの可能性が考えられ、同タイプの日本海側における分布の西限例となりうる。その他、落とし穴が八重第3遺跡(74)、小松谷遺跡(44)、下甲抜堤遺跡(45)、赤坂後口山遺跡(46)など多数の遺跡で検出されており、狩猟場として丘陵・微高地縁辺部が利用された様子が見られる。

弥生時代 この地域では前期の遺構は少なく、樋口第1遺跡(62)、三谷遺跡(66)などで土器が出土している程度である。中期になると遺跡数が増え、集落遺跡として細工塚遺跡、退休寺遺跡(52)、退休寺飛渡り遺跡(53)、南原千軒遺跡(82)などが挙げられる。南原千軒遺跡は勝田川沿いの扇状地上に位置し、中期初頭の土器が大量に出土している。また、中期初頭から後期までの土器を含む溝から施溝分割技法による管玉素材が多数出土しており、軟質な石材を用いて板状素材から施溝分割する「西川津技法」と同様なものがある点も注目される。墳墓では墓ノ上遺跡(91)、別所女夫岩峯遺跡(琴浦町別所)で木棺墓が見つっている。また、梅田萱峯遺跡では、中期後葉の貼石を施した長方形の墳丘墓(梅田萱峯墳丘墓)が検出された。現在のところ県内では最古級の弥生墳丘墓で、墳頂部には主体部を取り囲む墓上祭祀施設があったと想定されている。後期には、退休寺遺跡、八重第3遺跡、福留遺跡(84)、笹津乳母ヶ谷第2遺跡(80)、梅田萱峯遺跡、梅田東前谷中峯遺跡(79)など丘陵上に集落遺跡が多数造営される。湯坂遺跡(81)では小型の墳丘墓を増築した例があり、山陰地方では珍しい鉄石英製の管玉が副葬されていた。



1 東坪古墳群、2 豊成古墳群、3 長野城、4 浜ノ坂遺跡、5 西坪岩屋谷遺跡、6 西坪岩屋谷古墳、7 東坪中林遺跡、8 小竹下宮尾遺跡、9 小竹上鷹ノ尾遺跡、10 倉谷西中田遺跡、11 倉谷荒田遺跡、12 豊成叶林遺跡、13 豊成上神原遺跡、14 豊成28号墳、15 豊成上金井谷峰遺跡、16 松河原上奥田第2遺跡、17 倉谷横穴墓、18 角塚遺跡、19 栃原竊跡、20 栃原遺跡、21 上寺谷たたら、22 上大山第1遺跡、23 松河原第1遺跡、24 松河原第2遺跡、25 岩屋堂古墳(岡古墳)、26 岡3号古墳、27 高塚古墳、28 築地峯東通遺跡、29 林之峯東通遺跡、30 天守山遺跡、天守山城跡、31 細工塚遺跡、32 向畑遺跡、55 二本松遺跡、33 下市築地ノ峯東通第2遺跡、34 下市築地ノ峯東通第3遺跡、35 要害ノ峯遺跡、36 下市天神ノ峯遺跡、37 殿河内ウルミ谷遺跡、38 殿河内上ノ段大ブケ遺跡、39 殿河内定屋ノ前遺跡、40 住吉中平野遺跡、41 曲松古墳群、42 林之峯遺跡、43 住吉第1遺跡、44 小松谷遺跡、45 下甲坂堤遺跡、46 赤坂後山遺跡、47 赤坂大五輪塔、48 住吉第2遺跡、49 石井垣城跡、50 下甲退休原第1遺跡、51 築地ノ峰第3遺跡、52 退休寺遺跡、53 退休寺飛渡り遺跡、54 退休寺第1遺跡、55 二本松遺跡、56 羽田井遺跡、57 御崎古墳群、58 御崎第1遺跡、59 御崎第2遺跡、60 田中川上遺跡、61 樋口長田遺跡、62 樋口第1遺跡、63 樋口西野末遺跡、64 三谷古墳群、65 樋口第2遺跡、66 三谷遺跡、67 束積古墳群、68 笹津城跡、69 笹津古墳群、70 坂ノ上古墳群、71 梅田(栄田)古墳群、72 梅田六ツ塚遺跡、73 梅田菅峯遺跡、74 八重第3遺跡、75 八重第4遺跡、76 八重第1遺跡、77 岩屋平ル古墳、78 八重第2遺跡、79 梅田東前谷中峯遺跡、80 笹津乳母ヶ谷第2遺跡、81 湯坂遺跡、82 南原千軒遺跡、83 八幡遺跡、84 福留遺跡、85 出上岩屋古墳、86 條山城跡、87 太一垣古墳群、88 大仏山城跡、89 山川城跡、90 化粧川遺跡、91 墓ノ上遺跡、92 別所1号墳(笠取塚古墳)、93 別所古墳群、94 松谷中峰遺跡、95 松ヶ丘遺跡

第4図 周辺遺跡分布図

古墳時代 当該地域の古墳は、ほとんどが中期から後期にかけてのものであるが、前期では、前方後方墳の別所1号墳(笠取塚古墳、53m(92))がある。中期のうち、中期後半の高塚古墳(岡1号墳(27))は朝顔形埴輪・形象埴輪などが出土している直径30mの大型円墳で、当地域の首長墳と位置づけられる。中期から後期にかけては古墳群が築かれる。御崎古墳群(57)、別所古墳群(93)、笹津古墳群(69)、坂ノ上古墳群(70)、梅田(栄田)古墳群(71)、束積古墳群(67)、三谷古墳群(66)、豊成古墳群(2)などがある。御崎古墳群、別所古墳群、梅田古墳群では、横穴式石室が採用される直前の時期に、この地域独特の河原石を用いた箱式石棺を主体部にもつものがみられる。後期には、岩屋堂古墳(岡古墳)(25)、長野2号墳、岩屋平ル古墳(77)、豊成28号墳、出上岩屋古墳(県史跡(85))など切石積みの横穴式石室をもつものがあり、米子市淀江町域までの同一文化圏を形成している。この時代の集落は、依然丘陵上に営まれる傾向が強く、前期の八重第3遺跡、中期から後期の住吉第2遺跡など集落遺跡の調査例はあるが、実態は必ずしも明らかではない。

第2章 遺跡の位置と環境

古代 大山町は伯耆国の汗入郡に属する。『延喜式』によれば、束積・汗入・奈和という郷名がみられるが、郡衙の位置については明らかになっていない。また、確認されている遺跡も多くはない。小松谷遺跡(44)では、竪穴住居跡や掘立柱建物跡が確認されており、田中川上遺跡(60)では溝から8世紀前半の須恵器・土師器がまとまって出土している。栃原窯跡(19)は須恵器窯と考えられるが、上寺谷たたら(21)の製鉄炉やその周辺での鉄滓表採事例などから、炭窯の可能性も指摘されている。細工塚遺跡では大型の掘立柱建物跡群が検出され、平安時代の官衙関連遺構や有力層の建物と想定されている。大山町名和の名和下菖蒲谷遺跡では、遺物が出土しておらず時期は不明であるが、古代山陰道推定路線上に道路状遺構が確認されている。また、小竹下宮尾遺跡(8)でも道路状遺構が検出されている。やや離れるが、琴浦町内には山陰地方唯一の国特別史跡である斎尾廃寺がある。金堂や塔、講堂跡が残り、これらを取り囲む土塁状の高まりも存在する。伽藍配置は法隆寺式である。斎尾廃寺が位置する加勢蛇川右岸は伯耆国八橋郡の中心地であったと推定されている。やはり離れるが、大山に築かれる大山寺は、密教隆盛とともに信仰の中心的な役割を果たし、地方豪族に並ぶ僧兵勢力を有すようになる。

中世 律令体制の崩壊とともに封建制社会が形成される。南原千軒遺跡では平安後期の鍛冶関連遺構や遺物が大量に出土した。鍛冶炉や廃棄土坑のほか鉄滓や鍛造剥片などの微細遺物も豊富で、鉄素材から製品まで生産していたと考えられる。琴浦町南部には標高615mの船上山がそびえる。ここには南北朝期に後醍醐天皇が隠岐から逃れた行宮跡(国史跡)がある。赤碕港から船上山にかけては、鎌倉末期と推定される、宝塔と宝篋印塔の二様式を合わせもつ独特の形態の赤碕塔(県保護文化財)があることでも知られている。一方、旧名和町域には名和氏一族に関わるとされる旧跡が各所に見られる。また、中世城館が各地に残り、笹津豊後守敦忠の居城とされる石井垣城跡(49)、天守山城跡(30)、土塁と堀が残る町史跡の笹津城(檣城)跡(68)のほか、條山城跡(86)、大仏山城跡(88)、山川城跡(89)がある。また、長野城(3)など日本海沿岸部にも砦跡が築かれている。

【参考文献】

- 名和町誌編纂委員会編 1978『名和町誌』名和町
- 鳥取県埋蔵文化財センター 1986『鳥取県の古墳』
- 鳥取県埋蔵文化財センター 1988『旧石器・縄文時代の鳥取県』
- 鳥取県埋蔵文化財センター 1989『歴史時代の鳥取県』
- 内藤正中・真田廣幸・日置桑左工門著 1997『県史31 鳥取県の歴史』山川出版社
- 鳥取県教育委員会 2004『鳥取県中世城館分布調査報告書』第2集(伯耆編)
- 中山町誌編集委員会編 2009『新修中山町誌』大山町

発掘調査報告書類については割愛させていただいた。

第3章 樋口西野末遺跡の調査

第1節 遺跡の立地と層序

1 遺跡の立地と環境

調査地は、大山北麓に延びる丘陵に挟まれた扇状の台地東端で、南西から北東方向に向かってなだらかに傾斜する緩斜面地に位置している。南には大山、北には日本海を望む立地にある。調査地の東方100mには谷が刻まれており、調査地東辺が遺跡の境界となっている。また、遺跡は調査地西側へと続いており、今回の調査は遺跡東側の一部分を調査したことになる。調査地の調査前状況は畑地であり、周囲には水田が広がっている。

2 調査地内の土層堆積

調査地はなだらかな緩斜面であり、一部後世の攪乱土が堆積しているものの、基本的には傾斜に沿ってほぼ水平に土層が堆積していた。土層堆積の確認は、調査地北壁と東壁に沿って設定したトレンチ壁面によって行った。なお、調査地南西(F3グリット周辺)は地山の標高が高くなっており、耕作土直下に地山面が検出され、他の土層堆積はみられなかった。基本層序は以下のとおりである。

表土：暗褐色～黒褐色土。厚さ10～40cmの耕作土。

層：黒色土(7.5YR2/1)。一部の攪乱部分や地山標高の高い調査地南西部を除き、調査地内のほぼ全面に堆積している。しまり、粘性ともやや強い。弥生時代および8世紀後半～9世紀前半の遺物が出土した。上面は遺構検出面。

層：黒褐色土(10YR2/2)。一部の攪乱部分や地山標高の高い調査地南西部を除き、調査地のほぼ全面に堆積している。しまりはやや強く、粘性は強い。8世紀中葉～後葉の遺物が出土した。上面は遺構検出面。

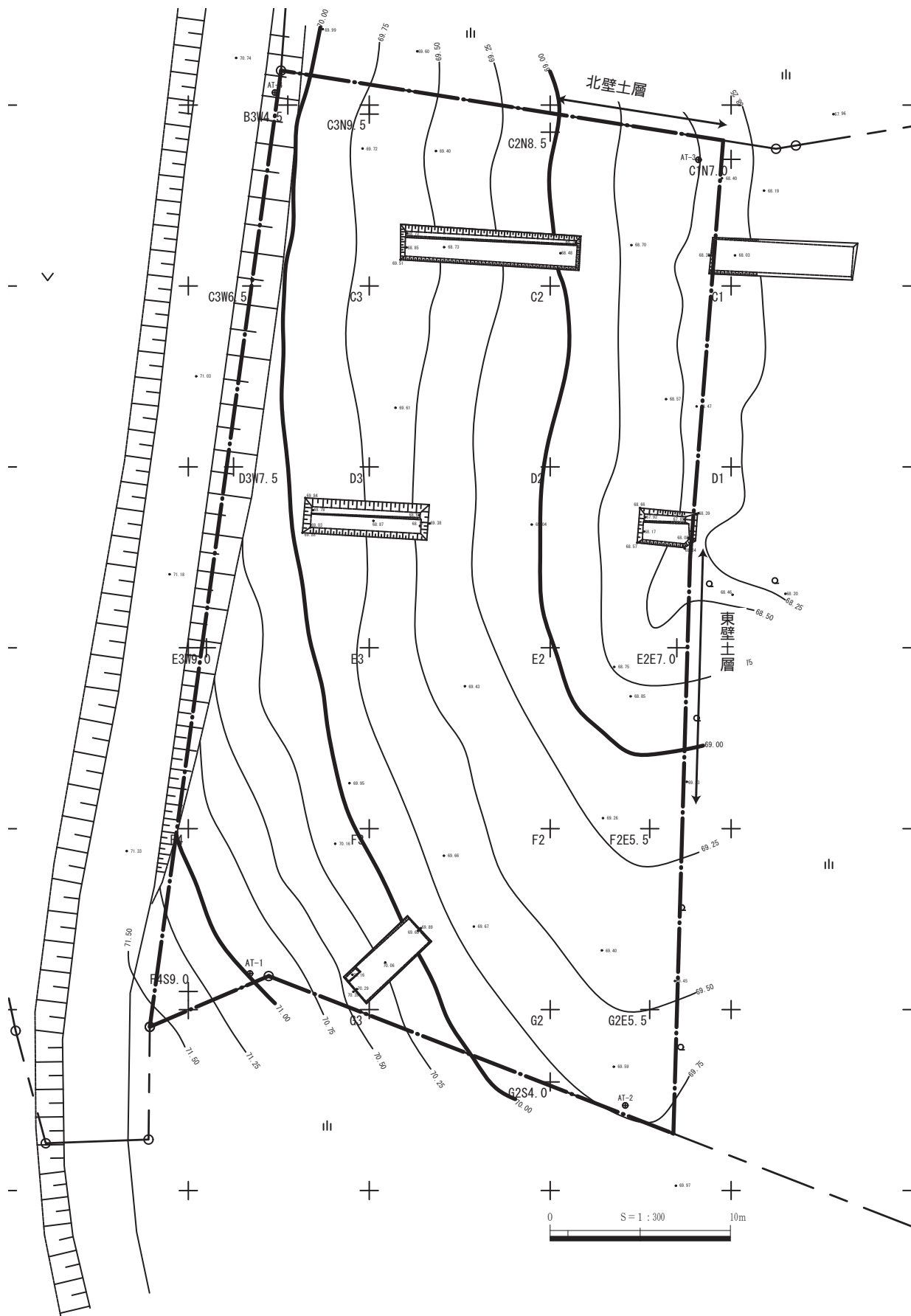
層：にぶい黄褐色土(10YR5/4)。一部の攪乱部分や地山標高の高い調査地南西部を除き、調査地のほぼ全面に堆積している。しまり、粘性ともやや強い。層と同時期の遺物が少量出土した。

層：明黄褐色土(10YR6/6)。しまり、粘性ともに強い。遺物は出土していない。

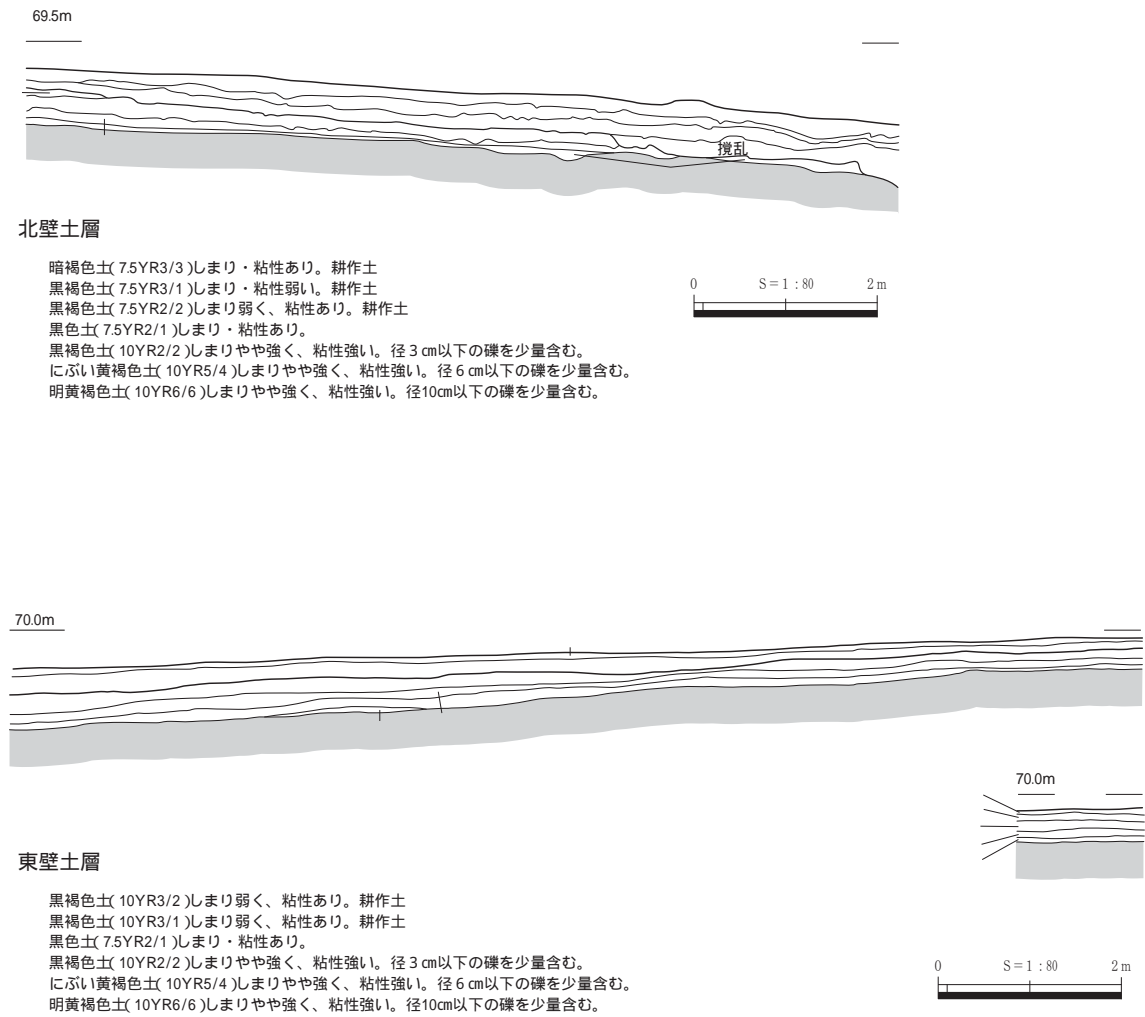
第2節 調査の概要

樋口西野末遺跡では、弥生時代の遺物および奈良時代～平安時代の遺物が出土した。遺構は奈良時代末～平安時代初頭の掘立柱建物跡2棟、土坑2基、ピット群を検出した。掘立柱建物跡の1棟は建て替えが行われている。この他、時期の特定できない遺構として土坑1基、溝2条、ピット列、ピット群、被熱面を検出した。

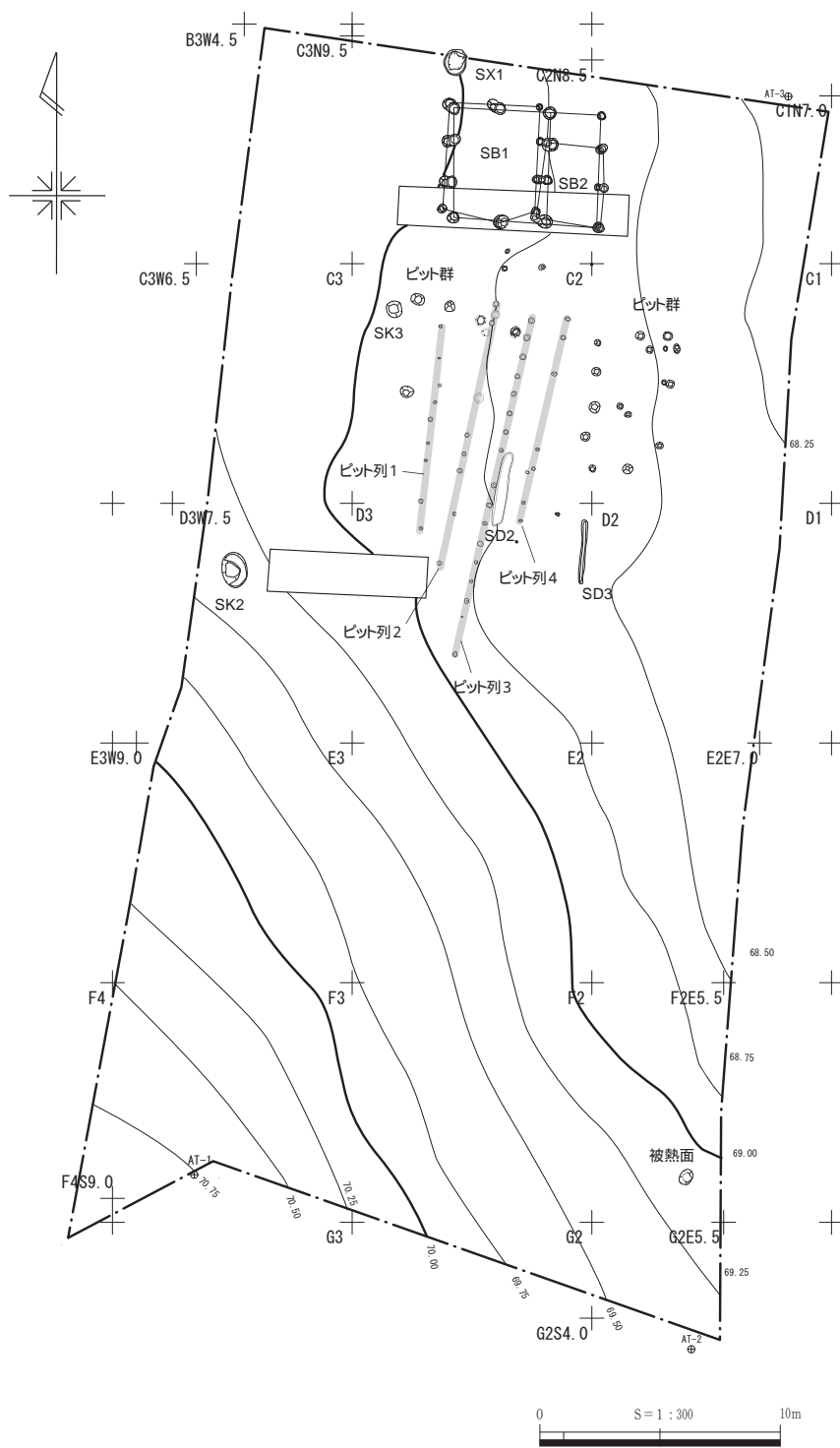
遺物はコンテナ3箱であった。層及び層出土の遺物が大半を占めており、8世紀中葉～9世紀前半の土師器・須恵器・砥石が出土した。



第5図 樋口西野末遺跡調査前地形測量図



第6図 樋口西野末遺跡調査地土層断面図



等高線は調査後地形を反映したもの

第7図 樋口西野末遺跡遺構配置図

第3節 古代の調査

1 概要

調査地北側の 層及び 層上面にて奈良時代～平安時代初頭の掘立柱建物跡 2 棟、土坑 2 基、ピット群、集石遺構を検出した。掘立柱建物跡のうち 1 棟は建て替えが行われている。また、 層～ 層中から赤色塗彩された土師器を含む奈良～平安時代の遺物が出土した。

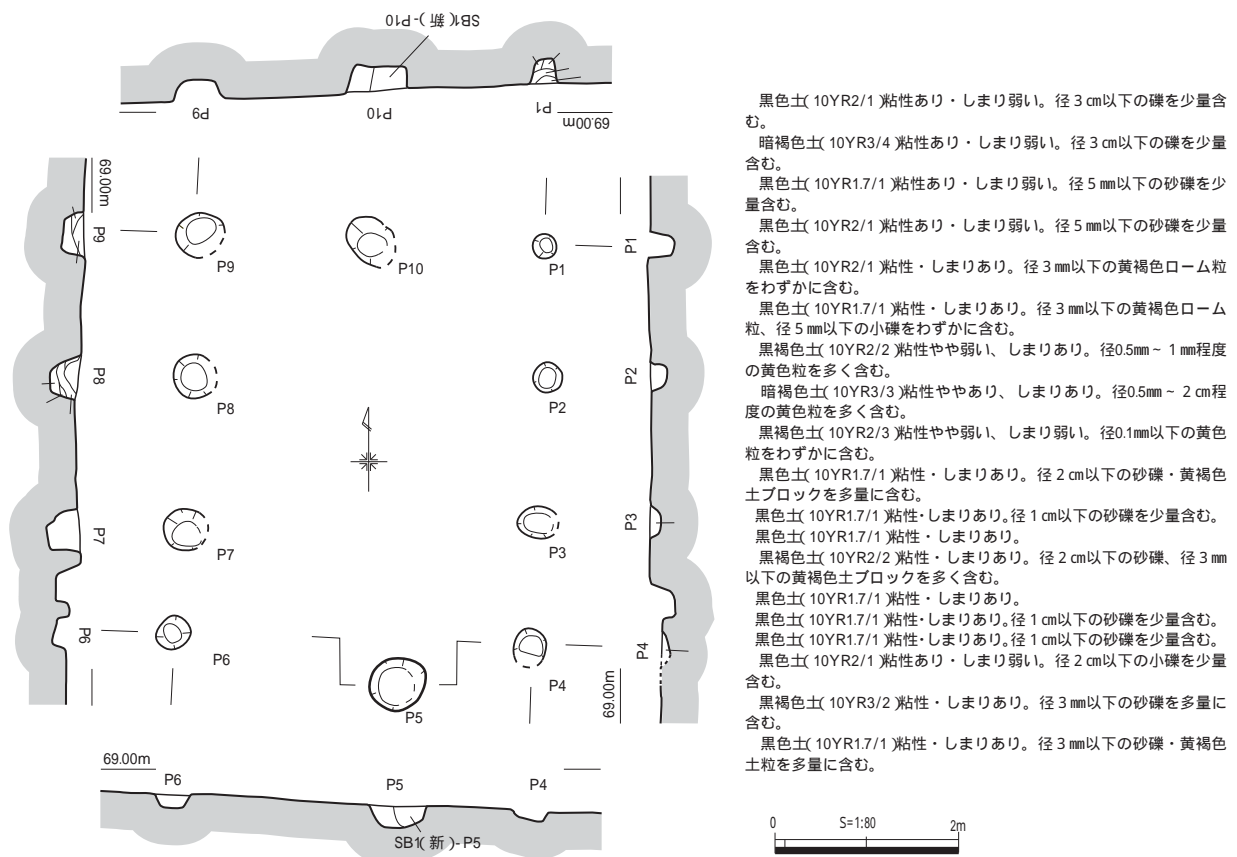
2 掘立柱建物跡

SB 1(第 8～10 図、巻頭図版 1、PL. 4・5・8)

調査区北東隅 B 1～B 2 グリッド、標高 68.8m～68.95m に位置する掘立柱建物跡である。層上面で検出した。本建物はほぼ同じ位置で建て替えをしており、建て替え後は片廂を伴う建物となっている。建て替え前を SB 1(旧)、建て替え後を SB 1(新)と呼ぶことにする。以下、SB 1(旧)、SB 1(新)の順に報告する。

SB 1(旧)

梁行 2 間、桁行 3 間の掘立柱建物跡である。主軸は N - 3° - E となり、ほぼ座標北を向く。柱穴間距離は、桁方向は 1.4m～1.6m の間に収まるが、梁方向は北側の P10 が P 1 と P 9 から等距離に位置して柱穴間距離はそれぞれ 1.8m になるものの、南側の P 5 は P 4 - P 6 間の柱通りから外れている。P 4 - P 5 間が 1.4m、P 5 - P 6 間が 2.4m と、距離にやや開きがある。柱穴の検出面からの深さは 15cm～



第 8 図 SB 1(旧)

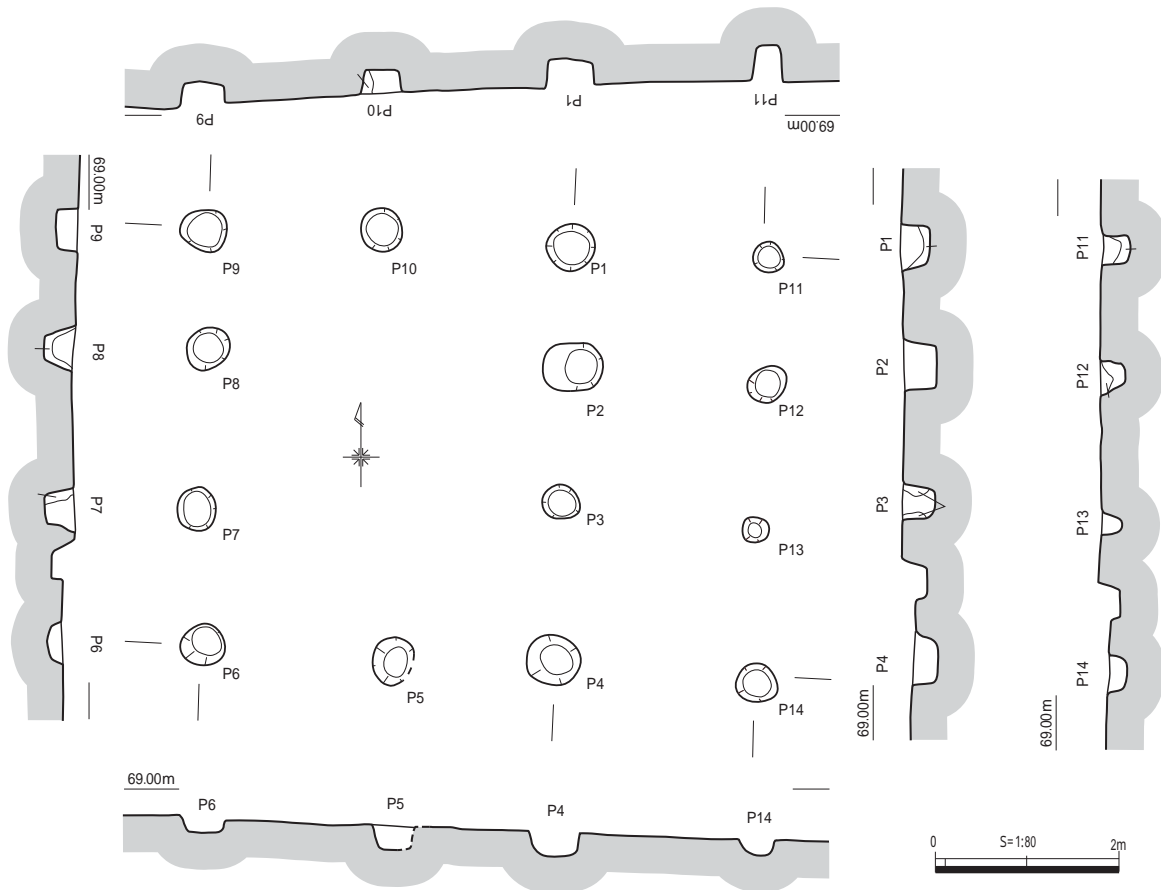
第3章 樋口西野末遺跡の調査

40cmで、いずれも黒色系の埋土であった。柱痕が残っているものはなく、遺物は出土していない。

SB 1(新)

身舎部は梁行2間、桁行3間で、東側に廂を伴う掘立柱建物跡である。SB 1(旧)とほぼ同じ位置で建て替えられており、主軸はN - 1.3° - Eで、ほぼ座標北を向く。柱穴間距離は桁方向が1.3m ~ 1.6m、梁方向が1.8m ~ 2.0を測る。柱穴の規模は、入側柱が径40 ~ 50cm、側柱が径30 ~ 40cmを測る。深さは30 ~ 40cmで、柱穴底面の標高は、入側柱が68.2 ~ 68.6m、側柱はほぼ68.3mに揃える。P 1は埋土下層に径1 ~ 5cmの礫を多量に含んでいた。埋土はいずれも黒系の土で、分層できるものも含有物の量に差がある程度であり、建物の廃絶後に堆積したものと考えられる。

遺物は、P 2、P 3から赤彩された土師器皿の口縁部2、5が、P10から赤彩された土師器杯の底部3が出土した。3の底部に回転ヘラ切りの痕跡が認められることから伯耆国庁編年の第2段階に相当し、9世紀代に比定できると考える。柱穴が層を切っており、層に被覆されていることから、



- 黒色土(10YR1.7/1)粘性・しまりあり。径5mm以下の礫を少量含む。
- 黒色土(10YR1.7/1)粘性・しまりあり。径5mm以下の礫を多量に含む。
- 黒色土(10YR2/1)粘性・しまりあり。径5mm以下の砂礫を多量に含む。
- 黒色土(10YR1.7/1)粘性・しまりあり。径3mm以下の黄褐色ローム粒を含む。
- 黒色土(10YR1.7/1)粘性・しまりあり。径2cm以下の黄褐色ロームブロックを多量に含む。
- 黒褐色土(10YR2/3)粘性やや弱い、しまり弱い。径3cm以下の黄褐色ロームブロックを含む。
- 黒褐色土(10YR2/2)粘性やや弱い、しまりあり。径1mm以下の黄褐色ローム粒を少量含む。
- 黒褐色土(10YR2/3)粘性やや弱い、しまり弱い。径5mm以下の黄褐色ローム粒を含む。
- 黒色土(10YR1.7/1)粘性・しまりあり。
- 黒色土(10YR2/1)粘性・しまりあり。径5mm以下の砂礫を多量に含む。
- 黒色土(10YR1.7/1)粘性・しまりあり。径5mm以下の黄褐色ローム粒を少量含む。

- 黒色土(10YR2/1)粘性・しまりあり。径5mm以下の砂礫を多量に含む。
- 黒色土(10YR1.7/1)粘性・しまりあり。径1cm以下の砂礫・黄褐色ロームブロックを少量含む。
- 黒色土(10YR1.7/1)粘性・しまりあり。径1cm以下の砂礫を多量に含む。
- 黒色土(10YR1.7/1)粘性・しまりあり。径1cm以下の黄褐色ロームブロックを多量に含む。
- 黒褐色土(10YR1.7/1)粘性強くしまり弱い。径5mm以下の砂礫、径3mm以下の黄褐色ローム粒を多量に含む。
- 黒色土(10YR2/1)粘性強くしまり弱い。径5mm以下の砂礫、径3mm以下の黄褐色ローム粒を多量に含む。
- 黒褐色土(10YR3/1)粘性強くしまりあり。径5mm以下の砂礫を少量含む。
- 黒色土(10YR2/1)粘性強くしまりあり。径5mm以下の砂礫、径1cm以下の黄褐色ロームブロックを多量に含む。
- 黒色土(10YR1.7/1)粘性強くしまり弱い。径5mm以下の砂礫をわずかに含む。
- 暗灰褐色土(10YR4/2)粘性・しまりややあり。径1mm以下の砂礫を多量に含む。

第9図 SB 1(新)

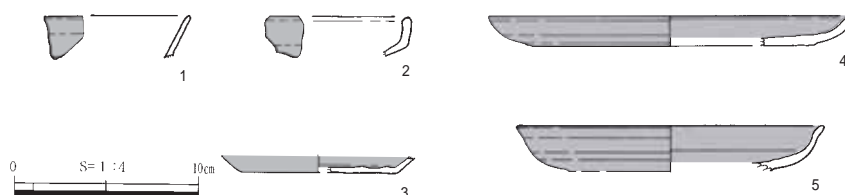
SB 1 は 8 世紀後葉以降に機能し、9 世紀前半代には廃絶していたものとする。

SB 2 (第 10 ~ 12 図、巻頭図版 1、PL. 5・8)

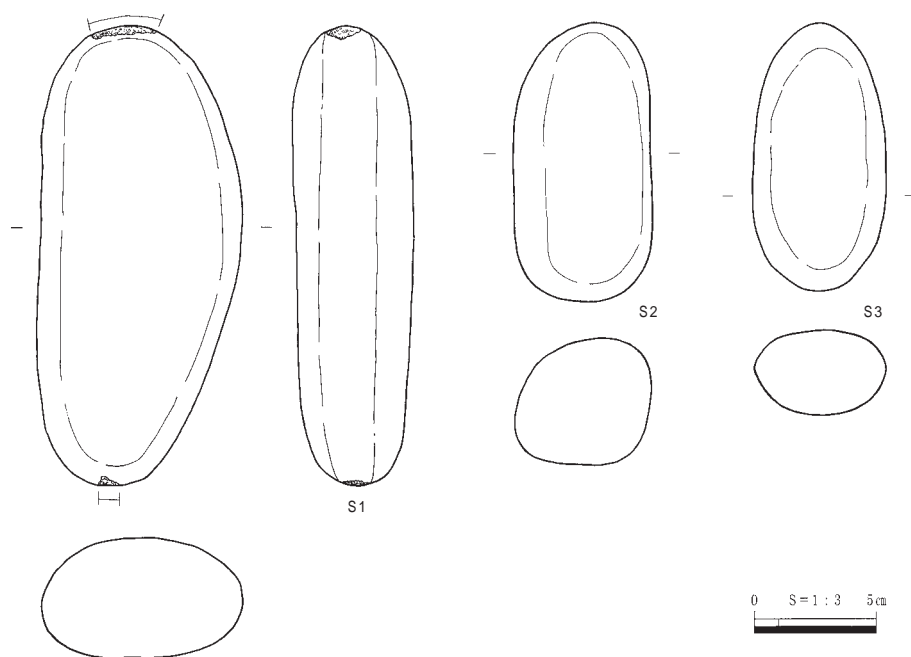
梁行 1 間、桁行 2 間の 6 本柱の建物である。層上面で検出した。主軸は N - 6.8 ° - E で、やや東向きに振れるもののほぼ座標北を向き、SB 1 と主軸方向を揃えるが、SB 1 (新) と切り合い関係があり、同時併存は考えられない。柱穴埋土を観察すると SB 2 の柱穴が SB 1 の柱穴埋土を掘り込んでおり、時期は SB 2 の方が新しい。柱穴間距離は桁方向が 2.4 ~ 2.8m、梁方向は 2.6m に揃える。柱穴の規模は径 30 ~ 40cm、検出面からの深さは 20 ~ 30cm を測る。いずれも黒色系の埋土であった。

遺物は P 1 から赤彩された土師器皿 4 が、P 6 から赤彩された土師器坏 1 が出土した。また P 2、P 3 からは楕円礫 S 1 ~ 3 が出土した。

遺物の時期は、土師器皿 4 の底部に回転ヘラ切りの痕跡が認められることから、伯耆国庁編年の第 2 段階、9 世紀代に比定できると考える。SB 1 と同様の理由で遺構の時期は 8 世紀後葉以降に機能し、9 世紀代前半には廃絶していたと考えられ、SB 1 と SB 2 は大きな時期幅をとらず、ほぼ同じ場所で建て替えを行っていた様子がうかがえる。

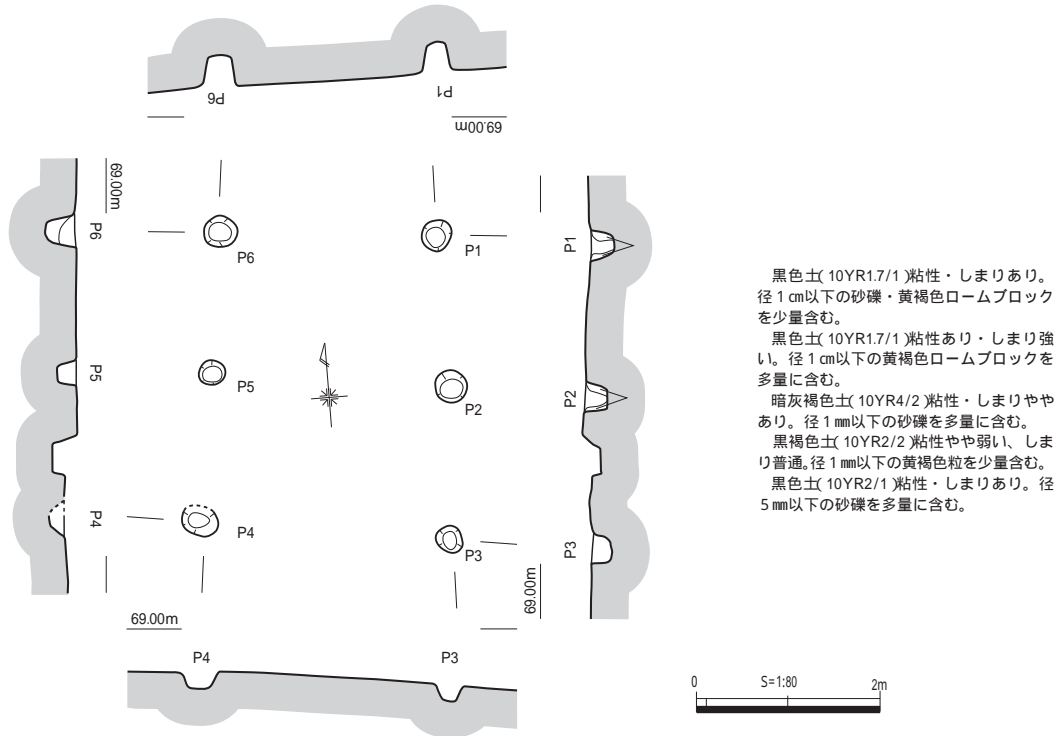


第10図 SB 1・2 出土土器

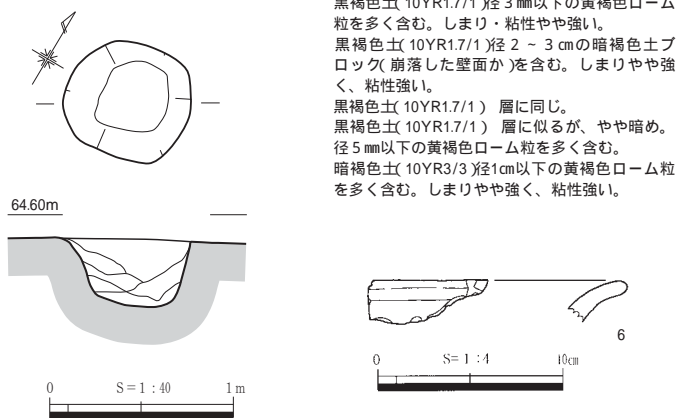


第11図 SB 2 出土石器・楕円礫

第3章 樋口西野末遺跡の調査



第12図 SB 2



第13図 SK 3 および出土遺物

3 土坑

SK 3(第13図、PL. 6・8)

C 2 グリッド北西隅、標高約68.85mに位置する。層上面で黒褐色土のプランとして検出した。平面形は直径約70cmの歪な円形を呈する。検出面からの深さは最深部で35cmを測る。周辺地形は東向き of 緩やかな傾斜地となっており、埋土は地形の傾斜に沿って自然堆積した様子が見える。

遺物は土師器甕 6 が 1 点出土した。

大きく開く単純口縁を持つ。本遺構の

性格については不明であるが、時期に関しては土師器甕 6 が出土していることから、奈良～平安時代のものであったと考えられる。

SX 1(第14図、PL. 6)

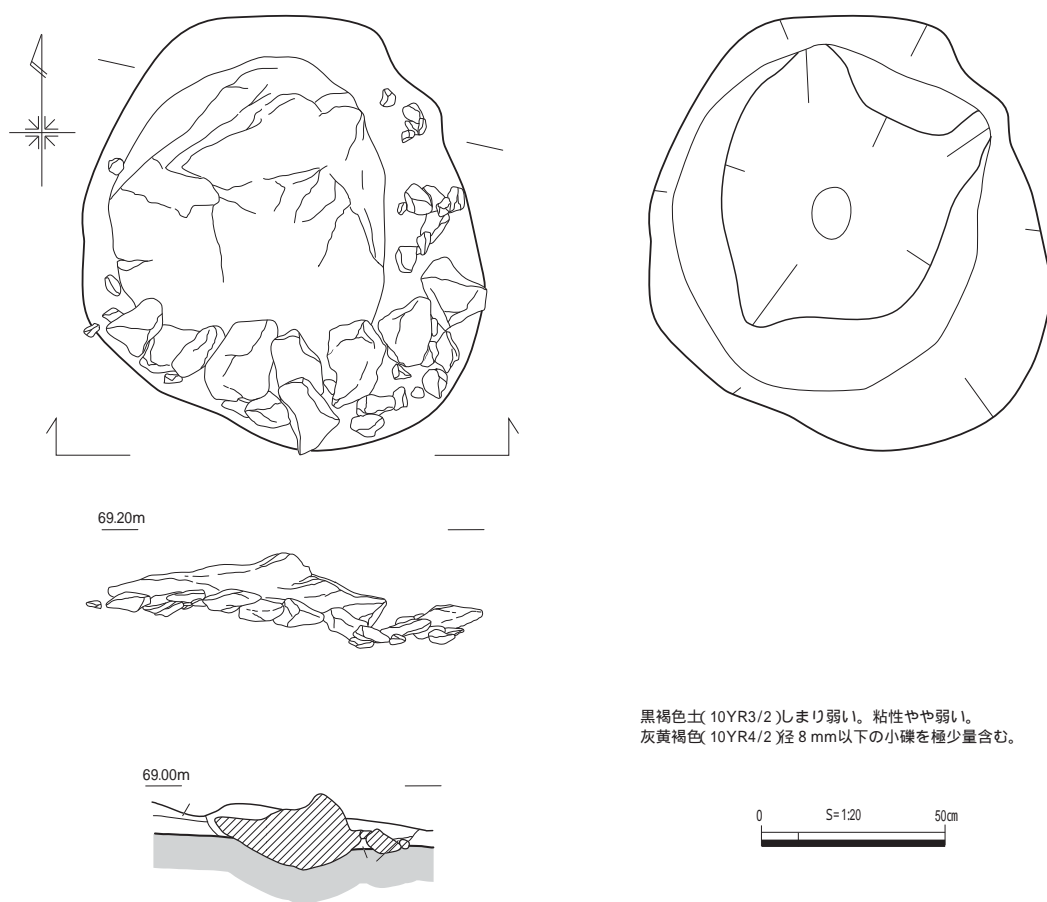
B 2 グリッド北端、平坦地上に位置する。調査区北壁に沿った土層確認用トレンチを掘削中に一定の範囲に集まっている大小の石を検出した。

平坦部を上面に向けた長径80cm、短径74cmの大型の石を中心とし、その周辺の窪みに長径2~30cmの小型の石を配置している。これらの石は、まず中央部分に大型の石を据え置き、その縁辺に沿うようにして、小型の石を西側から組み合わせるように並べている。

大型の石は60cm程度の厚さで、上半分のおよそ30cm程度の部分が 層上面に露出していた。この石の上面の平坦部は、外縁から内側にかけて工具痕にも似た筋の走ることから、人為的に打ち割った可能性もあるが、不明瞭であり断定はできない。大型の石の底はとがった形状をしており、突き刺さるような状態で地山に接していた。

石の覆土や本遺構周辺からは、土師器甕の口縁部や体部の破片などが出土している。小片のため図示することは不可能であったが、ヨコナデされた口縁部や内面に明瞭なケズリ調整が見てとれることから、他の出土遺物と同様、奈良時代後半～平安時代前半の範疇に収まるものと判断できる。

SX 1 は 層を切っており、その覆土から出土した土器が平安時代前半を下らないことから、9世紀代のものであると考えられる。



第14図 SX 1

第3章 樋口西野末遺跡の調査

4 ピット群

ピット群(第15図、表2、PL.7)

本遺跡では、調査地の北西部を中心として25基のピットを検出した。P3～8、40の7基は層上面で検出しており、8世紀後半～9世紀前半の遺構と考える。他のピットはいずれも地山層においての検出で時期を特定することができないが、本項で併せて述べる。これらのピットはほとんどが埋土が単層で残存状況は良くない。底面が硬化していることから、柱穴と判断できるものも含まれるが、ピットの平面的な位置から、このうちの多くは建物や柵列を構成する可能性は低いと考える。ピットから出土した遺物は少ない。ここでは、いくつか特徴的なものを報告する。

P4

C2グリッドの西寄りに位置する。層上面において検出した。長径は47cm、短径44cmで、深さは36cmを測る。ピット内は径24cmの範囲で円形に掘り下げられ、底面は硬化していた。埋土は、ローム粒子を含む黒色土を主体とする。

建物を構築する柱穴の一つであった可能性も考えられるが、対応するピットは存在しない。遺物は、赤色塗彩された土師器坏・皿の底部～体部片が1点出土した。小片であるため図示することができず、時期比定も困難であるが、ロク口の使用はうかがえず、立ち上がりも丸みを帯びることから、8世紀後半～9世紀前半に位置づけられる。P4は、層を切っており、層に被覆されていることからSB1・2と同時期であると考えられる。

P5

C2グリッドにおいて、P4よりも西側で検出した。P4同様、層上面においての検出である。ピットの規模は、長径42cm、短径41cm、深さ51cmを測る。埋土はローム粒子や砂礫を含む黒褐色土を主体としている。

底面が硬化しており、柱穴であると考えられる。遺物は、土師器甕の頸部が1点出土した。8世紀後半～9世紀の範疇におさまるものと考えられる。検出面から、P4と同時期の遺構と判断した。

P8

C2グリッドの中央付近において、層上面で検出した。長径44cm、短径40cm、深さ32cmの規模を測る。埋土は砂礫を含む黒色土である。

ピットの底面が硬化している点から、P5と同様に柱穴であると考えられる。遺物の出土はない。しかし形状や埋土などから、P4やP5に近い時期の柱穴である可能性がある。検出面からP4と同時期の遺構と判断した。

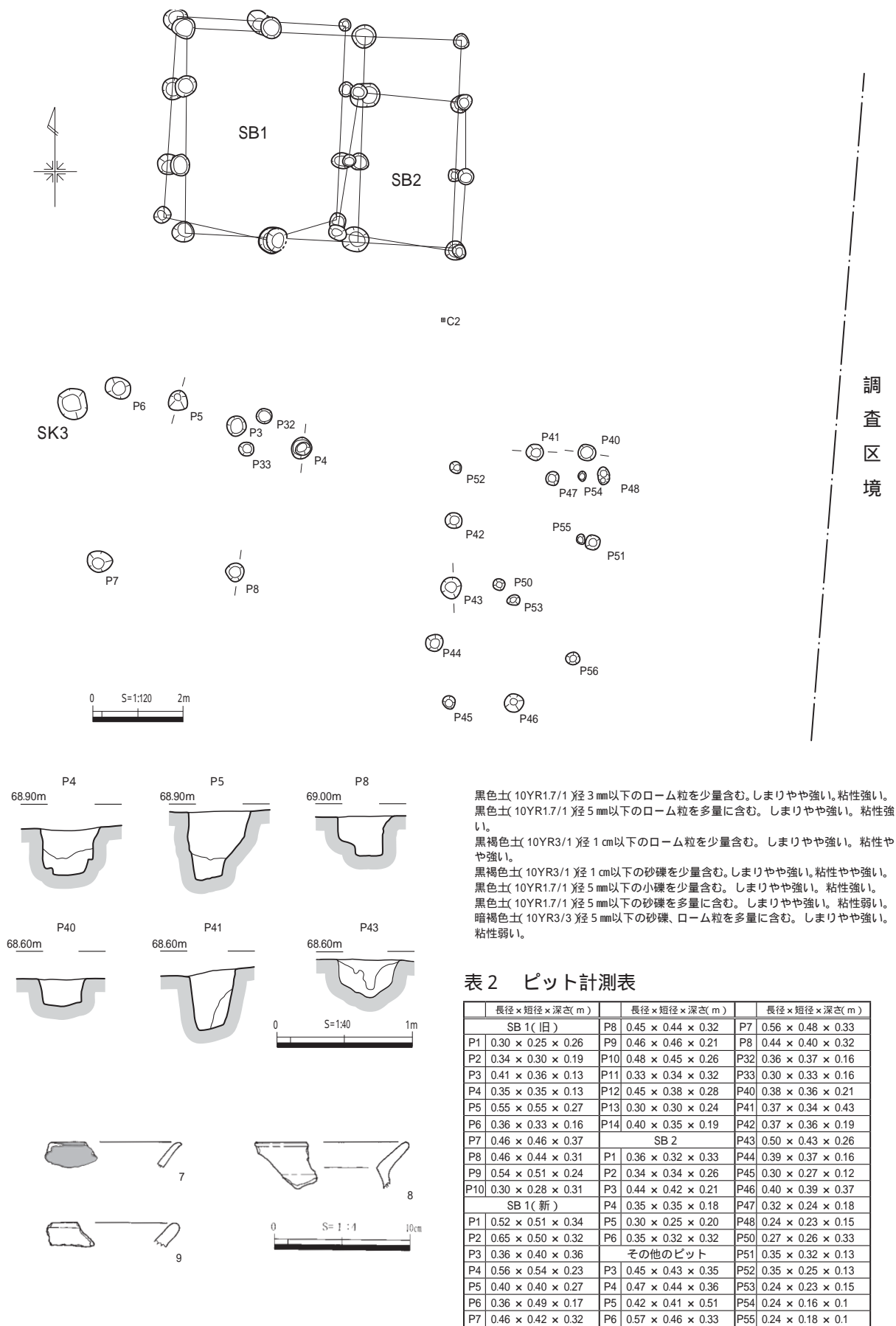
P40

C1グリッドの中ほど、調査地の東寄りに位置する。この付近は大きく攪乱を受けており、遺構を検出したのは層上面においてであり、残存状況は良くない。ピットの規模は長径38cm、短径36cm、深さ21cmを測る。埋土は砂礫を多く含む黒色土である。

埋土中から土師器坏もしくは皿の口縁部片が出土した(第15図-7)。形態的特徴から、この土師器片は8世紀後半～9世紀前半に位置づけられる。

P41

C1グリッドの中ほど、P40に隣接する位置で検出した。ピットの規模は、長径37cm、短径34cm、深さ43cmである。他のピットに比べて、地山層を深く掘りこんでいるのが特徴的である。埋土はP40



第15図 ピット群および出土遺物

第3章 樋口西野末遺跡の調査

同様、砂礫を多く含む黒色土を主体とする。

埋土中から、甕の口縁部～頸部片が1点出土した(第15図 - 8)。細片であるが、奈良時代～平安時代の遺物と認識できる。

P43

C1グリッドの南寄りにおいて検出した。ピットの規模は、長径50cm、短径43cm、深さ26cmである。埋土はP40、41と同質な、砂礫を多く含む黒色土を主体とする。

ピット群出土遺物(第15図、PL. 8)

ピット群においては、調査地東側に位置するものを中心として、遺物が少数ながら出土した。しかしまとまった出土はなく、ピットの埋土に破片が1点含まれる程度である。復元困難な細片が多いため、ここでは図示できるものを掲載した。

7は土師器の坏もしくは皿の口縁部片である。P40の埋土中から出土した。口縁部へかけて器壁が薄くなり、口縁端部は外反気味に開く形態をとる。内外面を赤色塗彩している。

8、9は土師器甕の口縁部片である。8はP41、9はP46の埋土中から出土した。いずれも口縁部の整形はすべてナデ調整によっているが、8は口縁部内面にわずかな凹みをもつ。一方で9は、口縁部内面を平滑にナデており、口縁端部へかけてはしだいに薄くなっていく。また、9は頸部以下がわずかに残存しており、外面にナデ調整、内面にケズリ調整を施していることがわかる。これらは土師坏7と同時期の遺物であると考えられる。

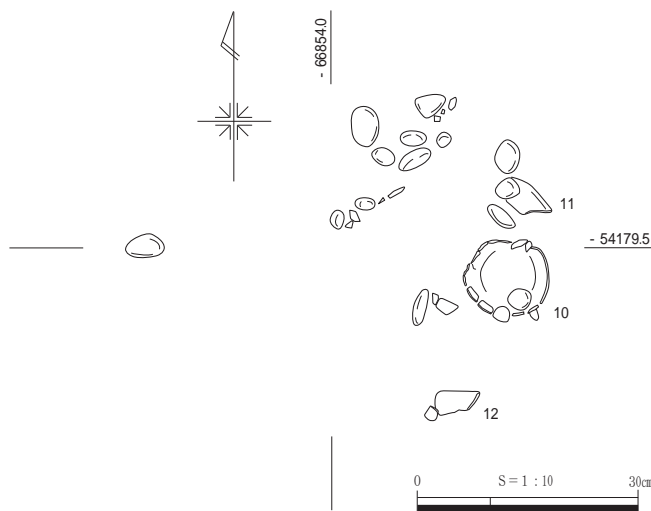
また、これらの遺物のほかに図示できなかったものとして、ピット群の埋土からは同様の土師器甕の口縁部片、体部片、坏・皿の破片、手づくねの土師器坏片などが出土した。

5 その他の遺構

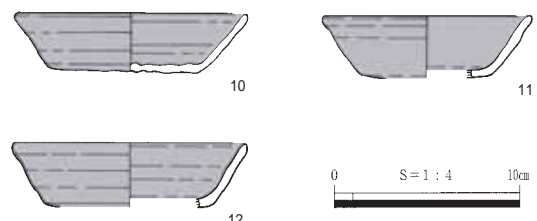
集石遺構(第16・17図、巻頭図版2、PL. 5・8・9)

B2グリッド南端の層中に土師器坏を伴う集石遺構を検出した。長径4～6cmの49個の小円礫に載るような状態で土師器坏が出土した。周辺を精査したが、明確な掘り方のプランは認められなかった。

出土した土師器坏は3個体で、すべて内外面を赤色塗彩している。10はほぼ完形に近い状態で、11と12は破片となった状態で検出した。いずれも底部から体部への立ち上がりが緩やかで、



第16図 集石遺構



第17図 集石遺構出土土器

口縁端部が外反しない形態を呈する。10は底部回転ヘラ切りの後、底部外縁にナデ調整を加えている。また、底部の中央付近に工具痕跡をもつ。

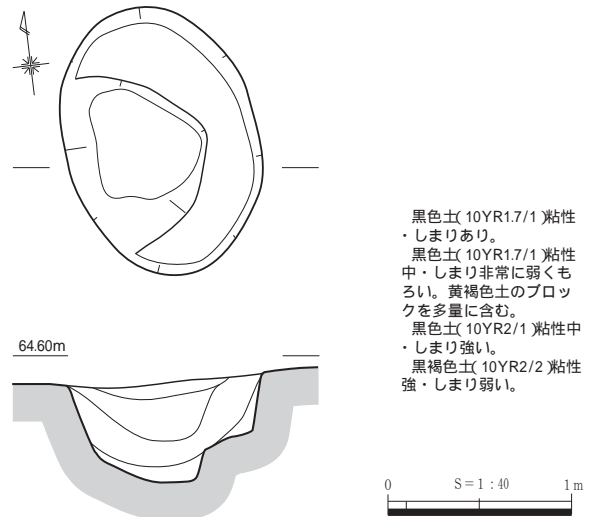
遺構の時期は10の底部が回転ヘラ切りであることから9世紀代と考える。

第4節 時期不明の遺構

SK 2(第18図)

D 3 グリッド中央やや北寄り、標高64.45 ~ 64.55 mに位置する。層上面で検出した。平面形は長軸1.95m、短軸1.05mの楕円形を呈し、検出面からの深さは最深部で0.55mを測る。埋土は概ねレンズ状であり、自然堆積した様子が見える。

遺物は出土しなかった。層を切っていることから、遺構の時期の上限は9世紀前半といえるが、下限は不明である。また、性格も不明である。

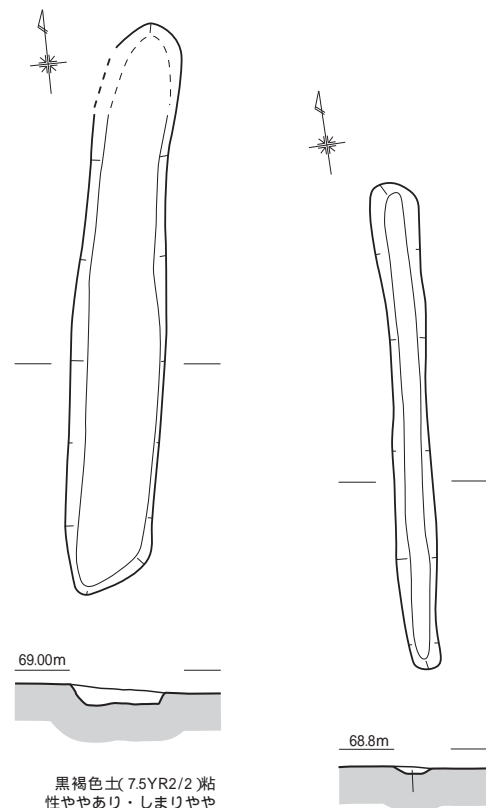


第18図 SK 2

SD 2(第19図、PL. 6)

C 2 ~ D 2 グリッド、標高68.9mに位置する。東側約3mには主軸をほぼ同じくするSD 3がある。

層上面で検出した。主軸はほぼ南北に向き、規模は長さ3.1m、幅0.5m、深さ0.1mを測る。底面は逆台形状を呈する。遺構の時期は、SK 2と同様である。主軸の方位から耕作痕の可能性も考えられるものの、長さも短く性格は不明である。



第19図 SD 2

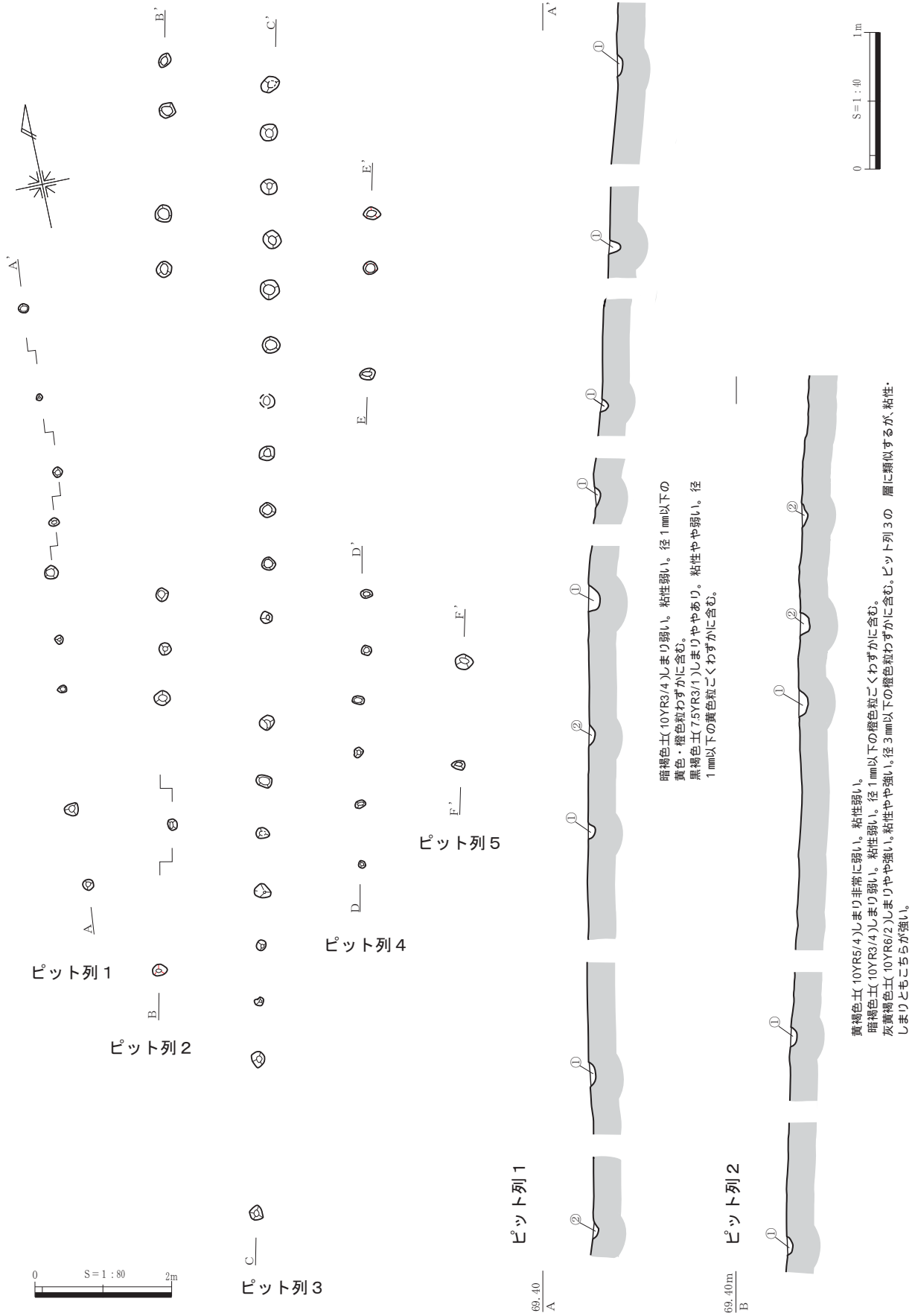
第20図 SD 3

SD 3(第20図、PL. 6)

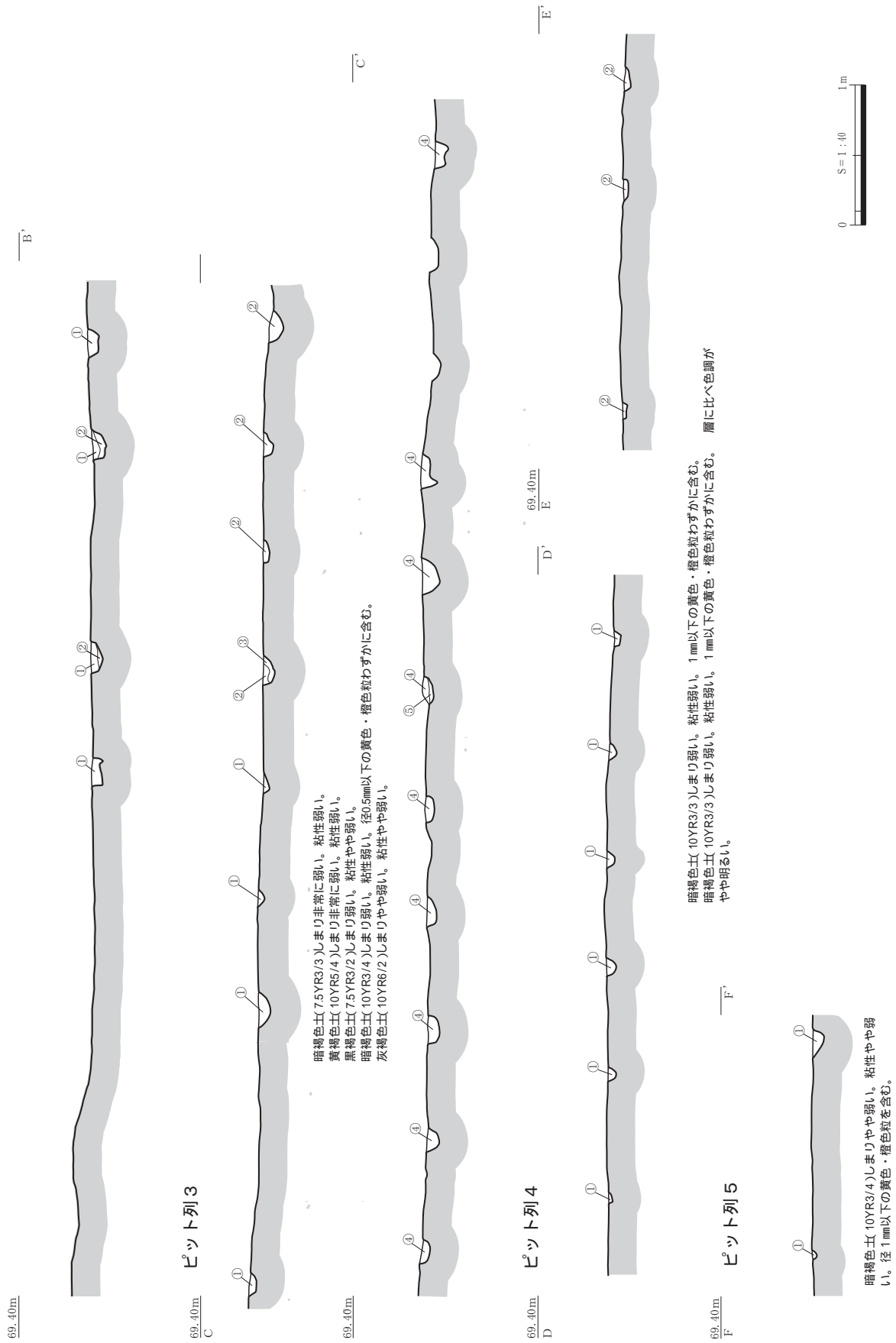
D 2 グリッド北東隅、標高68.7mに位置する。西側約3mに、SD 2がある。層上面で検出した。主軸はほぼ南北に向き、規模は長さ2.6m、幅0.2m、深さは4cmを測る。底面は逆台形状を呈する。出土遺物はなく、遺構の時期はSK 2と同様である。性格は不明である。

ピット列(第21・22図、PL. 7)

C 2・D 2 グリッドに位置する。層上面で検出した5列で構成される南北方向のピット列である。ピット列2~4はほぼ並行し、最も西側に位置するピット列1のみやや方向が異なっている。各ピット列の長さは1~5の順に8.6m、13.5m、16.7m、9.7



第21図 ピット列(1)

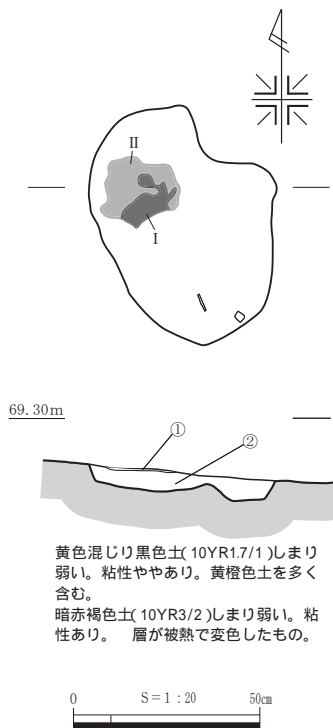


第22図 ピット列(2)

第3章 樋口西野末遺跡の調査

m、1.7mを測る。各ピットの深さは、2～12cmと浅い。2～4はピットの間隔がほぼ一定しており、芯芯間で0.8m前後である。また、ほぼ並行する2～5の列の間隔は、ピット列2-3間が1.5m、3-4間が1.4m、4-5間が1.4mを測る。

各列で長さが異なっていたり、ピット間の空隙が認められるが、検出されたピットは浅く、本来の遺構面がある程度失われていることも考えられるため、痕跡をとどめていないピットも存在していたことが想定される。本来はピット列がさらに長く延びたり、空隙にもピットが位置していた可能性もあろう。柵などとして利用された杭列と想定できるが、各列同士の間隔や時期差は判然としない。ピット内からは、時期や器種の特定期定できない土器の細片が数点出土した。本遺構の時期はSK2と同様である。



黄色混じり黒色土(10YR1.7/1)しまり弱い。粘性ややあり。黄橙色土を多く含む。
暗赤褐色土(10YR3/2)しまり弱い。粘性あり。層が被熱で変色したもの。

0 S=1:20 50cm

第23図 被熱面

被熱面(第23図、PL.6)

F1グリッドに位置する。層上面で検出した。短軸46cm程度、長軸64cm程度の不整形な楕円形状を呈する。掘り込みはない。層が熱を受け形成されたものとみられる。やや北寄りに、強く熱を受けたと見られる黄橙色土の広がる部分()があった。径15～20cmの範囲で黄橙色土が面的または斑点状に広がっており、ここで加熱したのであろう。遺物は出土していない。

第5節 遺構外出土遺物

層出土遺物(第24・25図、PL.9・10)

層中からは、本遺跡の中ではもっとも多くの遺物が出土した。その中でも、遺存状態が良く、土層の性格をよく示していると思われるものを図示した。

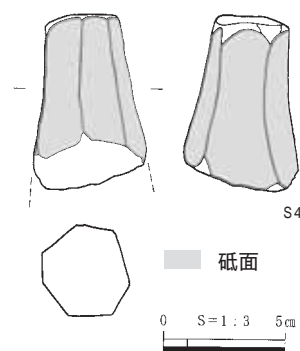
13～15は土師器の坏、16と17は皿である。回転台を用いて整形を行っており、底部が残存するものは、切り離し技法が回転ヘラ切りであることが確認できる。また、いずれも内外面を赤色塗彩している。

13は底部から口縁部にかけて外反気味に立ち上がるタイプ、14はやや内湾気味に立ち上がる体部である。さらに13は、底部に工具痕跡を有している。15は口縁部が欠損しているため全形は不明である。しかし底部内面に指頭圧痕が残り、底部形状が丸くなる点は特徴的である。

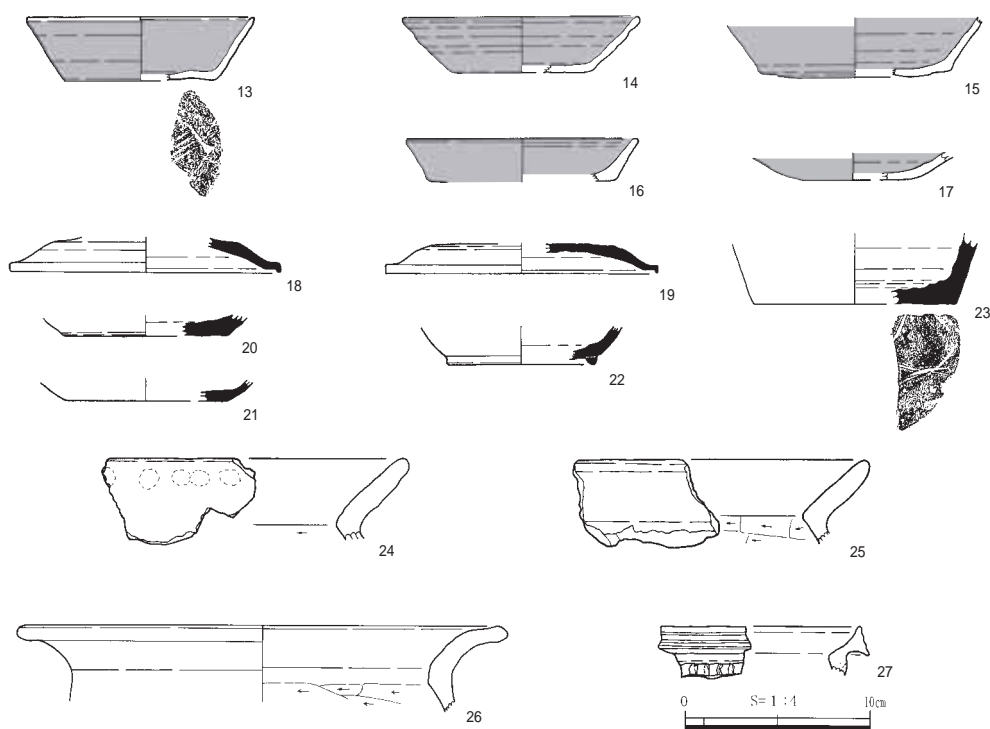
16の皿は13の坏と同様、体部が外反気味に立ち上がるものである。一方で17は、口縁部は欠損しているが、底部と体部の境界が丸くなる。このことから、底部から口縁部へかけては湾曲しながら立ち上がる器形であると考えられる。

18、19は須恵器の蓋である。双方とも、肩部から口縁部へかけて弱い屈曲をもつ笠形の形状を呈する。どちらも天井部は欠損しているが、18はわずかに天井部の回転ヘラケズリが観察できる。

20、21は無高台の須恵器坏、22は須恵器の高台付坏の底部である。無高台坏は底部の切り離しを回転ヘラ切り技法によっているが、22は高台貼り付けのナデのため、底部切り離し技法を判断することはできない。また、無高台坏はいずれも底部片であるため全形は不明であるが、体部への立ち上がりあまり湾



第24図 層出土石器



第25図 層出土土器

第3章 樋口西野末遺跡の調査

曲しないことから、器壁が直立気味にひらく器形であると推測できる。22の高台は低く、底部外縁よりもわずかに内側につく。また22は焼成がやや甘く、灰白色を呈している。

23は須恵器の壺類の底部である。器壁が厚く、焼成も堅緻である。底部の切り離しは回転ヘラ切りによっており、線状の痕跡を残している。工具痕跡であるのかヘラ記号であるのかは定かではないが、線の走行方向からヘラ記号である可能性が高い。底部のみの残存のため全形は不明である。

24～26は土師器の甕である。24、25は細片で、口縁部内面はヨコナデによって直線的に開き、頸部以下には横方向のケズリ調整を施している。また、24の口縁部外面には指頭圧痕がわずかに残る。一方で26は、器面調整は24、25と同様であるが、口縁部内面にわずかな凹みをもつ点が特徴的である。

27は弥生時代中期後葉の壺もしくは甕の口縁部である。口縁帯には3条の凹線を施し、頸部には刻み目を有している。

以上が 層出土の遺物である。13～23までの土師器供膳器、須恵器各器種の様相を見る限りでは、おおむね8世紀後半～9世紀前半の枠の中におさまるものといえそうである。

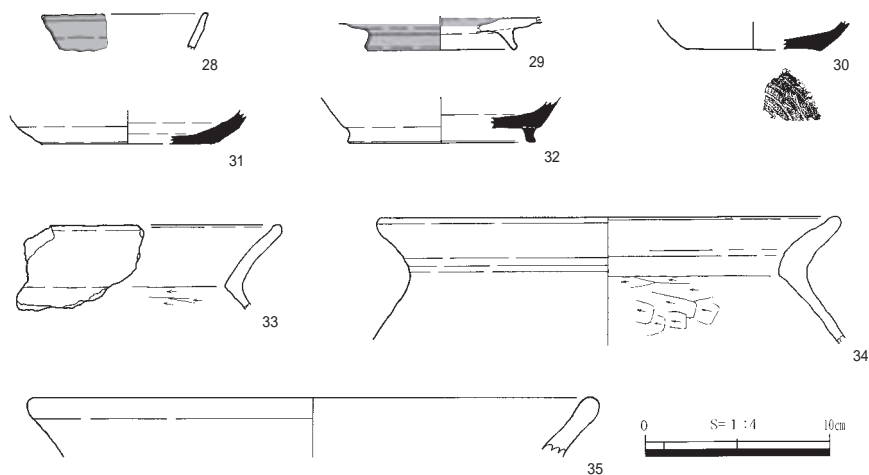
層・ 層出土遺物 (第26図、PL. 9・10)

層および 層からも 層同様、ある程度の時期的なまとまりをもった遺物が出土している。出土遺物は細片が多いため、図化が可能であったものを掲載した。29～32、34が 層、28、33、35が 層からの出土である。

28は土師器の坏もしくは皿の口縁部片である。細片であるため口径・全形の復元は不可能であったが、残存部分を見る限りでは、器壁がやや内湾気味に立ち上がる器形と考えられる。

29は土師器の高台付坏である。高台はわずかに外方へ踏ん張る形態をとり、高台高は1.1cmである。28と29はいずれも内外面を赤色塗彩している。ただし、29は残存部分を見る限りでは、高台見込み部に赤色塗彩は認められない。

30～32は須恵器の坏である。30と31は無高台の坏である。いずれも底部のみの残存であるが、底部から体部への立ち上がりが弧を描くことから、体部に丸みをもつ器形を呈する可能性が高い。底部切り離し技法は回転糸切りであるが、小片であるため、回転方向などは不明である。一方で、32は高台を有し、平城京分類の坏Bに該当する。高台作り出し技法は貼り付けによっており、残存部分のほ



第26図 ・ 層出土遺物

とんどに高台貼り付け時のナデが施されている。また、その残存部分からはわずかではあるが、底部の切り離しが回転ヘラ切り技法によっていることが見てとれる。0.6cmを測る高台は底部のやや内側につけられ、底部から体部にかけては、器壁は直線的に外方へ立ち上がる。

33～35は土師器の甕である。35は口縁部のみ破片であるが、33と34は頸部以下もわずかに残っている。33、34は口縁端部にわずかな凹みをもち、口縁部よりも頸部の方へかけて器壁が厚くなる。一方、35は口縁端部が丸く肥厚し、頸部へかけてやや薄くなる形態をとる。また、33の口縁部は34・35に比べてだいぶ薄手である。33、34は頸部以下が内面にケズリ調整、外面にナデ調整を施している点、一般的な土師器甕の様相をもつといえる。

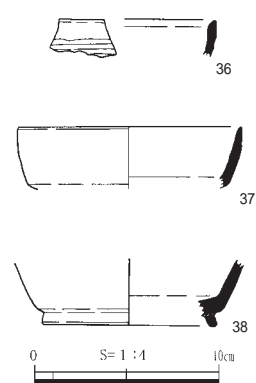
層出土遺物同様、供膳器より、およそ8世紀中葉～後葉という時期の範疇におさまるものと考えられる。

攪乱土出土遺物(第27図、PL.10)

攪乱土から出土した遺物のうち、図示が可能であったのはいずれも須恵器の坏片である。

36は、坏の口縁部である。口径と全形は不明であるが、口縁端部が外方へ開かず、内湾気味になることがわかる。また、口縁端部は内側に肥厚する。37、38は高台付坏である。37は、高台部分は遺存していないが、底部に高台の破片がわずかにとりつくため、高台付坏と判断した。37の器壁は薄く、口縁端部は先細りとなる形態をとる。38は体部～高台にかけての破片である。高台は底部のやや内側につき、底部から体部にかけては直線的に外方へ開く。高台高は0.6cmを測り、高台は貼り付けによっている。

本遺跡の攪乱土からはこのほか、土師器・須恵器の坏片、土師器甕の破片などといった遺物が出土している。これらの資料は8世紀後半～9世紀初頭に帰属するものと考えられ、比較的まとまった時期様相を呈している。



第27図 攪乱土出土遺物

第3章 樋口西野末遺跡の調査

第6節 樋口西野末遺跡のまとめ

今回の樋口西野末遺跡の調査では、8世紀後半～9世紀前半の成果が中心であった。遺跡の評価にあたり留意すべき点として、以下の3点が挙げられる。

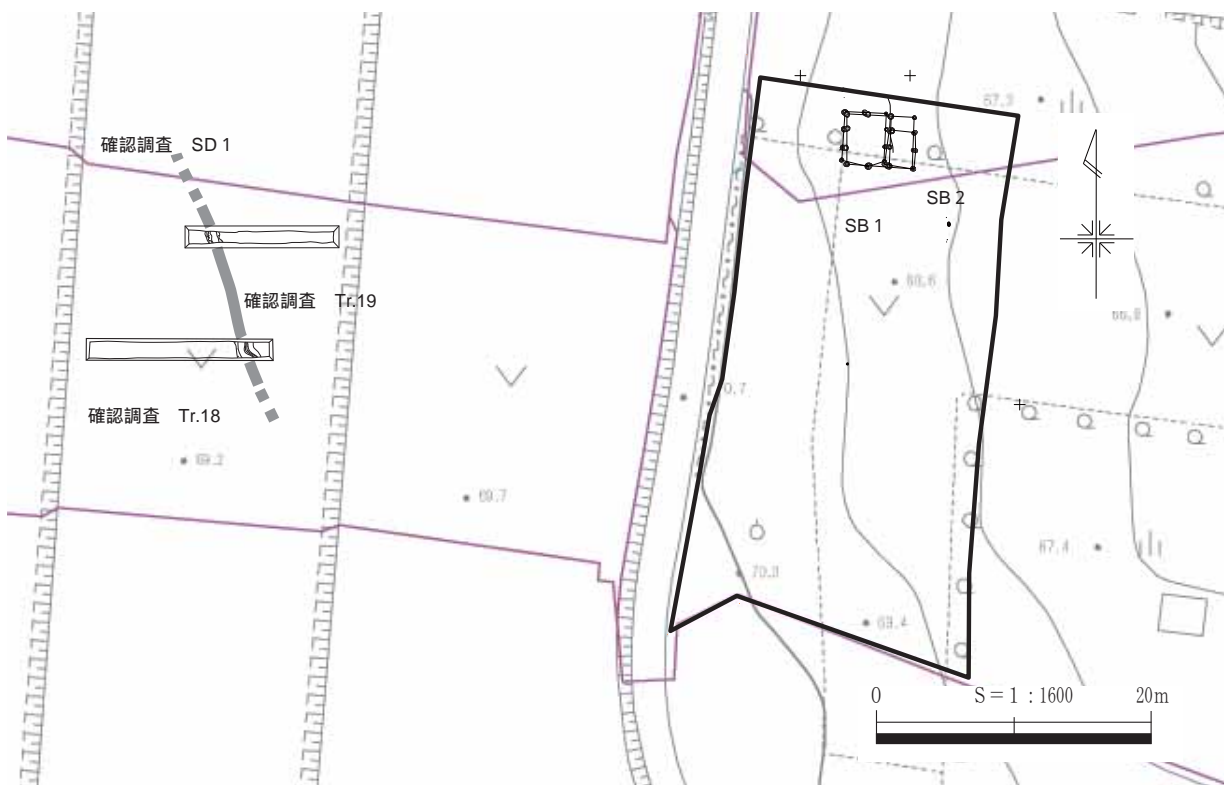
第1は2棟検出された掘立柱建物跡(SB1・2)である。2棟のうち1棟(SB1)は建て替えが行われており、建て替え後は底付の建物であった。また、2棟の掘立柱建物跡は切り合っており同時併存していないが、軸を揃え隣り合う位置に建てられており、このスペースを意図的に繰り返し利用している。

第2は赤色塗彩の土師器である。遺跡内の出土遺物は全体に少なく、量的な比較は難しいが、甕などの煮沸具に比して赤色塗彩の供膳器や同時期の須恵器が目立つ。また、調査地外になるが、後述する樋口西野末遺跡に設定した確認調査トレンチ(第16～19トレンチ、第5章第12節参照)の調査成果では、古代の赤色塗彩の土師器が多数出土した。

第3は、確認調査トレンチで検出した南北方向の溝(SD1)である。赤色塗彩の土師器が多数出土しており、本調査範囲との関連を考慮する必要があるだろう。溝の性格は明らかではないが、検出した掘立柱建物跡と時期的に並行することから、掘立柱建物群の西側を区画する溝の可能性はある。

以上の3点を考えると、奈良時代～平安時代初頭において調査地周辺が一般的な集落であったとは想定しにくい。今回の調査成果だけでは具体的な様相を明らかにすることは困難であり、今後の周辺地の調査成果を待ちたいが、現時点の所見としては、継続的に利用された公的な施設が位置していた可能性があると考えられる。

遺跡は調査地西側へと連続しており、確認調査においても溝や加工段が検出されている。今後の発掘調査によって、より具体的な遺跡の様相が明らかになるだろう。



第28図 本調査地および確認調査溝SD1

遺物観察表

表3 樋口西野末遺跡土器観察表(1)

遺物番号	取上番号	遺構層位	挿図PL	種類器種	口径(cm) 底径(cm) 器高(cm)	残存率	部位	手法上の特徴	胎土	色調	焼成	備考
1	98	SB2 P6埋土	第10図 PL.8	土師器 坏	2.5	口:10%未満	口縁部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ	密	内外面赤褐色	良好	内外面赤彩。
2	99	SB1(新) P3埋土	第10図 PL.8	土師器 皿	2.0	口:10%未満	口縁部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ	密	内外面赤褐色	良好	内外面赤彩。
3	102	SB1(新) P10埋土	第10図 PL.8	土師器 坏	8.6 0.8	底:40%	底部	内面:回転ナデ、不定方向のナデ 外面:回転ナデ、回転ヘラケズリ、底部押 圧	密	内外面赤褐色	良好	内外面赤彩。
4	105	SB2 P1埋土	第10図 PL.8	土師器 皿	19.6 15.2 1.6	底:20%	口縁部~底部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ、底部回転ヘラ切り	密	内外面赤褐色	良好	内外面赤彩。
5	108	SB1(新) P2埋土	第10図 PL.8	土師器 皿	16.4 11.0 2.5	口:10%未満 底:10%	口縁部~底部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ	密	内外面赤褐色	良好	内外面赤彩。高台剥離。
6	79	層 SK3埋土	第13図 PL.8	土師器 甕	2.2	口:10%未満	口縁部	内面:ヨコナデ 外面:ヨコナデ	密	内外面暗褐色	良好	外面口縁端部にスス付 着。
7	109	P40埋土	第15図 PL.8	土師器 坏・皿	1.9	口:10%未満	口縁部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ	密	内外面赤褐色	良好	内外面赤彩。
8	110	P41	第15図 PL.8	土師器 甕	3.5	口:10%未満	口縁部	内面:ヨコナデ、ケズリ 外面:ヨコナデ	密	内面褐色 外面暗褐色	良好	
9	113	P46埋土	第15図 PL.8	土師器 甕	1.8		口縁部	内面:ヨコナデ 外面:ヨコナデ	密	内面褐色、暗褐色 外面褐色、黒褐色	良好	
10	85	層 集石遺構	第17図 PL.5・8	土師器 坏	12.4 8.0 3.2	口:40% 底:80%		内面:回転ナデ、見込み部押圧 外面:回転ナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ	密	内面淡赤褐色 外面赤褐色	良好	底部に工具痕あり。内 外面赤彩。
11	85	層 集石遺構	第17図 PL.5・8	土師器 坏	11.0 7.0 4.6	口:25%	口縁部~底部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ、底部ナデ	密	内面赤褐色 外面淡赤褐色	良好	外面に黒斑あり。
12	85	層 集石遺構	第17図 PL.5・8	土師器 坏	12.4 8.4 3.4	口:15% 底:8%	口縁~底部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ	密	内外面赤褐色	良好	内外面赤彩。
13	32	層	第25図 PL.9・10	土師器 坏	12.3 8.2 3.4	口:10%未満 底:15%	口縁部~底部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ、底部回転ヘラ切り	密	内外面赤褐色	良好	内外面赤彩。底部に工 具痕。
14	27	層	第25図 PL.9・10	土師器 坏	12.6 7.4 3.1	口:10%未満 底:10%未満	口縁部~底部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ、底部回転ヘラ切り	密	内外面赤褐色	良好	内外面赤彩。
15	30	層	第25図 PL.9・10	土師器 坏	10.4 3.2	底:10%	体部~底部	内面:回転ナデ、見込み部押圧 外面:回転ナデ、底部回転ヘラ切り	密	内面褐色、暗褐色 外面褐色、暗褐色	良好	内外面赤彩。
16	63	層	第25図 PL.9・10	土師器 皿	12.4 2.3	口:10%未満	口縁部~底部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ、底部回転ヘラ切り	密	内外面赤褐色	良好	内外面赤彩。
17	69	層	第25図 PL.9・10	土師器 坏・皿	5.4 1.5	底:10%未満	底部	内面:回転ナデ 外面:ナデ	密	内外面赤褐色	良好	内外面赤彩、外面に黒 斑あり。
18	63	層	第25図 PL.9・10	須恵器 蓋	14.6 1.8	口:12%	肩部~口縁部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ	密	内外面灰色	良好	
19	63	層	第25図 PL.9・10	須恵器 蓋	14.8 1.7	口:20%	肩部~口縁部	内面:回転ナデ、不定方向のナデ 外面:回転ナデ、1/2範囲に回転ヘラケズ リ	密	内外面灰色	良好	口ク口左回転。
20	59	層	第25図 PL.9・10	須恵器 坏・皿	8.8 1.1	底:10%未満	底部	内面:回転ナデ、不定方向のナデ 外面:回転ナデ、底部回転ヘラ切り	密	内外面灰色	良好	
21	69	層	第25図 PL.9・10	須恵器 坏	8.6 1.4	底:10%未満	底部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ、底部回転ヘラ切り	密	内外面灰白色	良好	
22	5	層	第25図 PL.9・10	須恵器 高台付坏	8.0 2.0	底:10%未満	底部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ	密	内外面灰白色	良好	貼り付け高台。
23	2	層	第25図 PL.9・10	須恵器 壺	11.0 3.8	底:10%未満	底部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ、底部回転ヘラ切り	密	内外面灰色	良好	外面に自然釉付着。底 部にヘラ記号か
24	4	層	第25図 PL.9・10	土師器 甕	4.3	口:10%未満	口縁部	内面:ヨコナデ、ケズリ 外面:ヨコナデ、ユビオサエ	密	内外面明褐色	良好	内外面赤彩。
25	2	層	第25図 PL.9・10	土師器 甕	4.5	口:10%未満	口縁部	内面:ヨコナデ、頸部直下にケズリ 外面:ヨコナデ	密	内面褐色、暗褐色 外面褐色	良好	
26	30	層	第25図 PL.9・10	土師器 甕	25.4 4.6	口:10%未満	口縁部	内面:ヨコナデ、ケズリ 外面:ヨコナデ	密	内面褐色、暗褐色 外面明褐色	良好	
27	59	層	第25図 PL.9・10	弥生土器 壺・甕	2.6	口:10%未満	口縁部	内面:ヨコナデ 外面:ヨコナデ、凹線文、刻み目突帯	密	内外面褐色	良好	
28	115	層	第26図 PL.9・10	土師器 坏	2.1	口:10%未満	口縁部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ	密	内外面赤褐色	良好	内外面赤彩。
29	83	層	第26図 PL.9・10	土師器 台付坏	8.0 1.8	底:12%	底部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ	密	内面赤褐色 外面赤褐色、褐色	良好	高台見込み以外の内外 面赤彩。
30	73	層	第26図 PL.9・10	須恵器 坏	7.2 1.6	底:10%未満	底部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ、底部回転糸切り	密	内外面灰色	良好	

第3章 樋口西野未遺跡の調査

表4 樋口西野未遺跡土器観察表(2)

遺物番号	取上番号	遺構層位	挿図PL	種類器種	口径(cm) 底径(cm) 器高(cm)	残存率	部位	手法上の特徴	胎土	色調	焼成	備考
31	119	層	第26図 PL.9・10	須恵器 坏	9.4 1.8	底:10%未満	底部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ、回転ヘラ切り	密	内外面灰色	良好	
32	67	層	第26図 PL.9・10	須恵器 高台付坏	10.4 2.4	底:10%未満	底部	内面:回転ナデ、不定方向のナデ 外面:回転ナデ	密	内外面灰色	良好	貼り付け高台。
33	117	層	第26図 PL.9・10	土師器 甕	5.0	口:10%未満	口縁部	内面:ヨコナデ、ケズリ 外面:ヨコナデ	密	内面褐色、暗褐色 外面褐色	良好	
34	87	層	第26図 PL.9・10	土師器 甕	20.8 6.9	口:20%	口縁部	内面:ヨコナデ、頸部直下にケズリ 外面:ヨコナデ	密	内外面褐色	良好	
35	93	層	第26図 PL.9・10	土師器 甕	30.0 2.6	口:10%	口縁部	内面:ヨコナデ 外面:ヨコナデ	密	内面明褐色 外面明褐色、暗褐色	良好	
36	26	攪乱土	第27図 PL.10	須恵器 坏	2.0	口:10%未満	口縁部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ	密	内外面濃灰色	良好	
37	90	攪乱土	第27図 PL.10	須恵器 台付皿	12.2 3.9	口:10%未満	口縁部~底部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ	密	内外面灰色	良好	
38	90	攪乱土	第27図 PL.10	須恵器 高台付坏	9.2 3.6	底:10%未満	体部~底部	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ	密	内外面淡灰色	良好	貼り付け高台。

表5 樋口西野未遺跡石器・石製品観察表

遺物番号	取上番号	遺構地区 層位名	挿図PL	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
S 1	97	P 16	第11図 PL.10	楕円礫	18.7	8.1	4.9	1170
S 2	101	P 21	第11図 PL.10	楕円礫	11.4	5.7	5.1	921.9
S 3	101	P 21	第11図 PL.10	楕円礫	10.9	6.4	3.4	276
S 4	70	B 3 層	第24図 PL.10	砥石	7.1	4.5	3.7	146.5

第4章 下市天神ノ峯遺跡の調査

第1節 遺跡の立地(第29図)

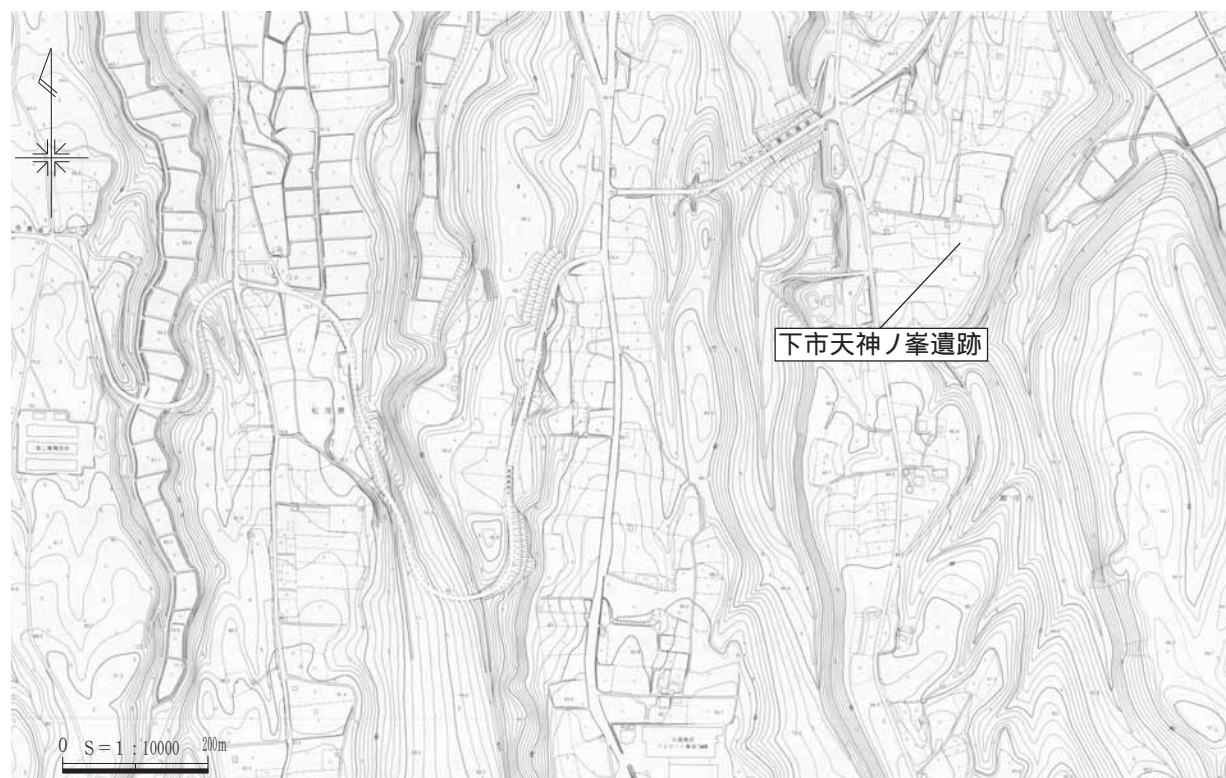
下市天神ノ峯遺跡は、大山から北に派生する丘陵地帯のうち、宮川と下市川に挟まれた丘陵群の一角を占める台地状丘陵上に位置している。遺跡の載る丘陵の西側には下市川の支流くずくし川が北流し、この川の西側には下市築地ノ峯東通第2遺跡が所在する。丘陵東側にも下市川の支流ウルミ谷川が流れ、この川の西岸・東岸に殿河内ウルミ谷遺跡が所在する。

遺跡周辺の標高は約65～75m、平坦面幅は東西約200mを測り、痩せ尾根と細い谷が連続する近隣の丘陵に比べて平坦地が広くなだらかである。地形を細かく見ると、遺跡中央には谷があり、これを境に東西に2つの尾根が北に向かって延びている。調査地は東側尾根上に位置しており、標高は約72mである。遺跡近辺の地目は果樹園で、これに伴うと考えられる大規模な造成が行われていた。

第2節 調査の経過

平成21年8月11日から10月16日にかけて、開発予定地内に計1418.3㎡のトレンチを掘削して確認調査を行ったところ、確認調査トレンチTr.17で落とし穴と考えられる土坑1基を確認した。約1400㎡の調査を行ったにもかかわらず土坑1基のみの確認であったことから、鳥取県教育委員会事務局文化財課との協議の結果、土坑を確認したTr.17のみを下市天神ノ峯遺跡の本調査対象地とすることとなった。なお、確認調査の経緯と調査結果については第5章第4節を参照されたい。

本調査は平成21年11月24日から25日にかけて、確認調査に引き続いて行った。確認調査で検出、半裁していた土坑を完掘し、写真撮影および図面作成などの記録作業を行って調査を終了した。調査面積は20㎡である。



第29図 遺跡位置図

第4章 下市天神ノ峯遺跡の調査

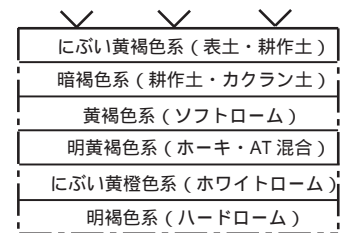
第3節 調査地内の堆積(第30図)

調査地は大山から派生する火山麓丘陵に位置するため、火山碎屑物堆積層が基盤となっている。火山碎屑物層の直上はすぐに耕作土となっている。先述のように、遺跡内では梨栽培に伴う造成や攪乱が著しく、本来の堆積が失われたものと考えられる。

確認調査トレンチでは、いわゆる地山にあたる火山碎屑物堆積層も深掘りを行っており、6層の基本層序として整理している(第5章第4節参照)。

・ 層は表土、耕作土および攪乱土、層以下が火山碎屑物堆積層である。層がいわゆるソフトローム層、層が始良丹沢火山灰(AT)と上または下のホーキ火山砂の混合層、層がホワイトロームと呼ばれるにぶい黄橙色の粘質土層、層がハードロームと呼ばれる明褐色の硬質の粘質土層である。

本調査では基本層序層に対応する1層、層に対応する2層、層に対応する3層を確認している。遺構検出面は3層(基本層序層)上面である。



第30図 調査地の基本層序

第4節 調査の成果

1 概要(第31図)

調査は遺跡の東部に設定されていた確認調査トレンチTr.17を踏襲し、幅2m、長さ10mの範囲で行った。この範囲は東側尾根の平坦面西縁部に位置しており、北西側の谷に向かって傾斜し始める場所にあたる。この範囲で落とし穴と考えられる土坑を1基検出した。

遺物は調査地内からは全く出土していない。ちなみに、確認調査では弥生時代を中心に、縄文時代



第31図 調査地の位置

から近世にかけての遺物が少量確認されている(第5章第4節参照)。

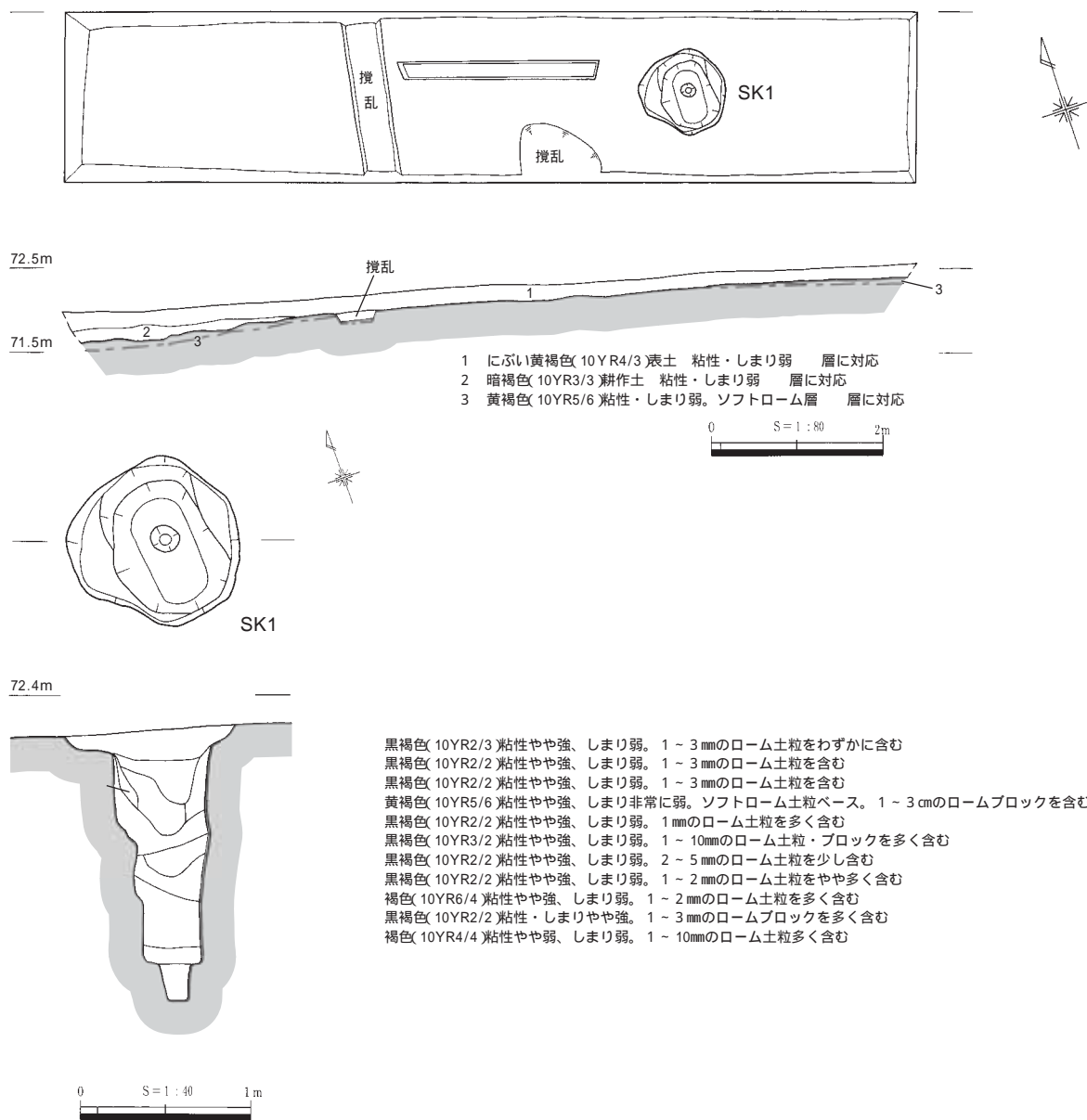
2 土坑

SK1(第32図、PL.11)

調査地の東部、丘陵平坦面の肩部付近で検出した。

土坑は2段掘りになっており、上面はやや不整な円形を呈しているが、最上部以外では整った長楕円形の平面となっている。したがって、平面形は長楕円形と捉えられよう。遺構の規模は、検出面で径約1m、底面で長径0.65m、短径0.3m、検出面から底面までの深さは1.4mである。底面中央には径約15cm、深さ約20cmの小ピットが掘り込まれている。遺構埋土はすべて暗褐色～黒色の自然流入土である。

この土坑は形態から見て落とし穴と考えられる。遺物は出土していないが、縄文時代のものである可能性が考えられる。



第32図 調査地平面図・断面図およびSK1遺構図